

和歌山県立紀伊風土記の丘再編事業 基本設計概要

令和 5 年（2023） 5 月

和歌山県立紀伊風土記の丘

再編工事の概要

- ①アプローチ道路：片方の植樹帯を道路に変更し、対面交通を実現。
- ②バス転回広場：博物館（改修）前まで、バスでのアクセスを実現。
- ③第 1～3 駐車場：博物館近隣に 112 台分確保し、利便性を向上。
- ④体験広場・屋外展示：団体利用者の集散場所を確保し、団体利用の利便性を向上。
- ⑤博物館（新築）：鉄筋コンクリート造 3 階建て：3,775 m²。展示室・収蔵庫を配置。
- ⑥博物館（改修）：鉄筋コンクリート造平屋建て：1,593 m²、教育普及（子供博物館）・管理・調査研究部門を再配置。
- ⑦収蔵棟（新築）：木造平屋建て：1,780 m²（2 棟合計）。考古・民俗資料を保管。
- ⑧体験学習棟：木造平屋建て：224 m²、最大収容 90 人の体験学習室、WC、電気窯を配置。

工事概算額：約 51 億円

造成 1 期：約 3 億円

2 期：約 2 億円

建築（新築・改修）：約 29 億円

建築（収蔵・体験）：約 6 億円

展示収蔵工事：約 11 億円

スケジュール概要

R 5（2023）工事实施設計

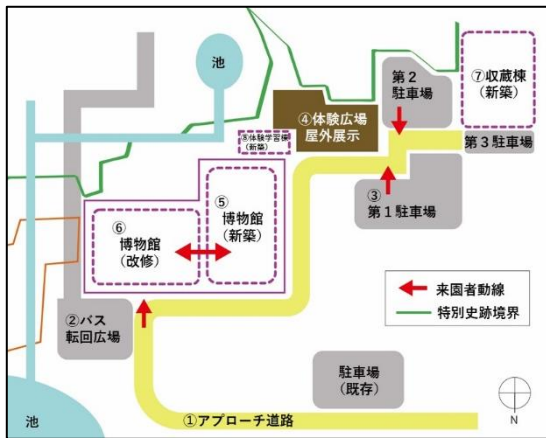
R 6（2024）造成工事 1 期

R 7（2025）収蔵・体験学習棟建設工事

R 8（2026）博物館（新築・改修）工事

R 9（2027）展示工事・造成工事 2 期

R 10（2028）枯らし/下期：開館



敷地概念図



外観イメージ 左：現資料館・右：博物館（新館）【北東から】



展示室【博物館（新築）2 階】

イメージ



体験学習棟パース【北西から】



展示室 V 【子供博物館：博物館（改修）】イメージ

和歌山県立考古民俗博物館（仮称）基本設計概要・抜粋

造成工事基本設計業務概要書抜粋

令和4年度 紀風 第2号 和歌山県立考古民俗博物館（仮称）設計業務

造成配置計画

1.造成施設配置概要

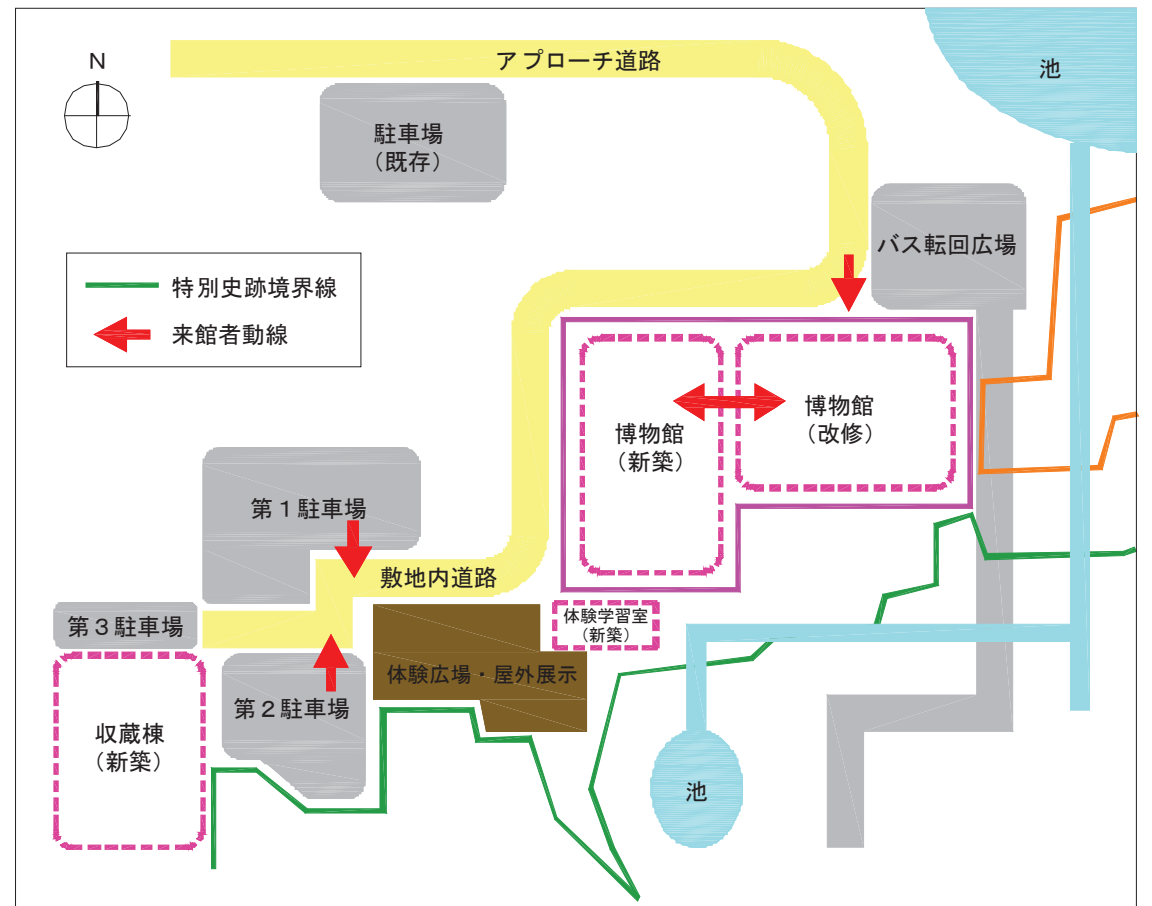
造成配置については、「和歌山県立考古民俗博物館（仮称）基本計画書」に示されている整備方針に基づくとともに、発注者側の要望等を踏まえて配置を決定した。

また、新築される建築棟（博物館・収蔵棟・体験学習室棟）の配置及び規模については、建築設計業務の配置計画によるものとした。

＜土木工事面積＞	
①博物館（新築）建設地	A=1,716 m ² （3階建：延床面積 A=3,986 m ² ） ※建築設計資料より
②収蔵棟（新築2棟）建設地 ・屋外敷地面積	A=1,780 m ² （1階建） A=840 m ² ※建築設計資料より
③体験学習室棟（新築）建設地	A=224 m ² （1階建） ※建築設計資料より
④駐車場施設 ・一般駐車場 ・管理用車両駐車場 ・大型バス転回広場 ・障害者用駐車場 ・駐車場周囲法面	ΣN=112台（A=2,700 m ² ） 第1駐車場 N=77台 第2駐車場 N=18台 第3駐車場 N=17台 A=230 m ² A=900 m ² N=5台（A=90 m ² ） A=680 m ²
⑤体験広場・屋外展示場 ・真砂土敷設面積 ・屋外展示施設	A=2,250 m ² 石敷製塩炉 3基 クスノキ巨木（A=70 m ² ）
⑥特別史跡区域 ・芝張工敷設面積	A=2,850 m ²
⑦敷地内道路 ・敷地内道路面積 ・敷地内歩道面積 ・道路周囲法面 ・里道（北西部）	A=1,410 m ² A=340 m ² A=370 m ² A=180 m ²
⑧アプローチ道路 ・アプローチ道路面積 ・アプローチ歩道面積 ・道路周囲法面	A=3,650 m ² A=1,270 m ² A=170 m ²
⑨樹木移植エリア	A=280 m ²
土木工事合計面積	A=22,000 m ²

造成配置計画

＜造成配置の概念図＞



全体計画平面図

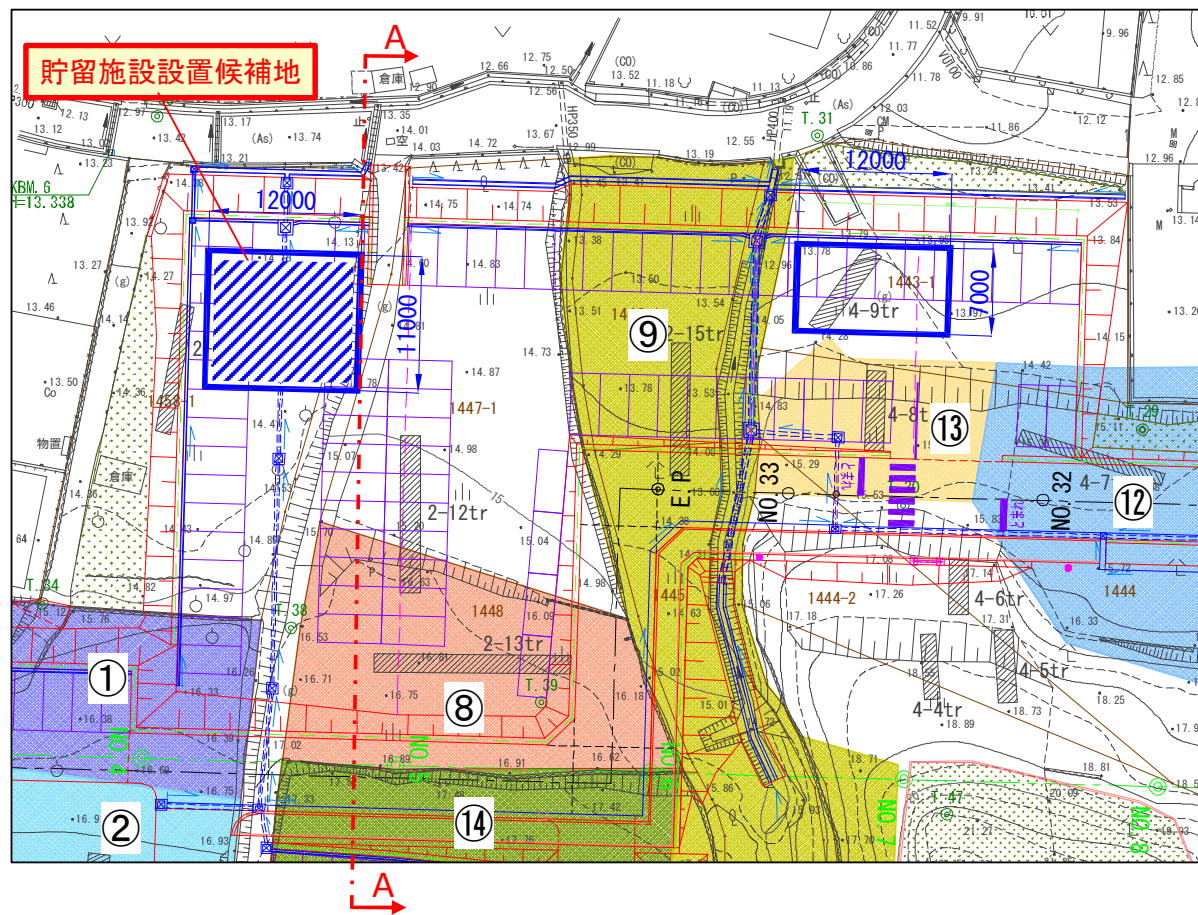
S=1: 700 (A1)
S=1:1400 (A3)

【造成配置全体平面図】

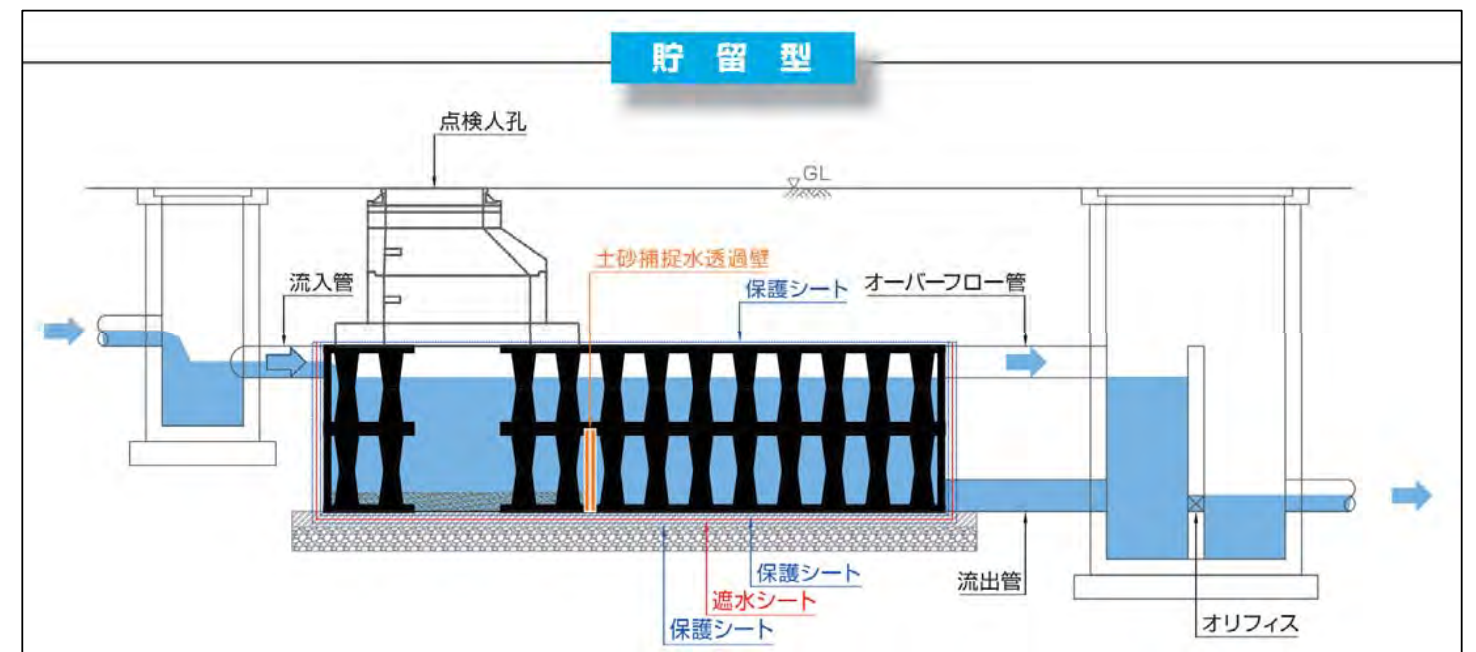


調整池計画（流域C）

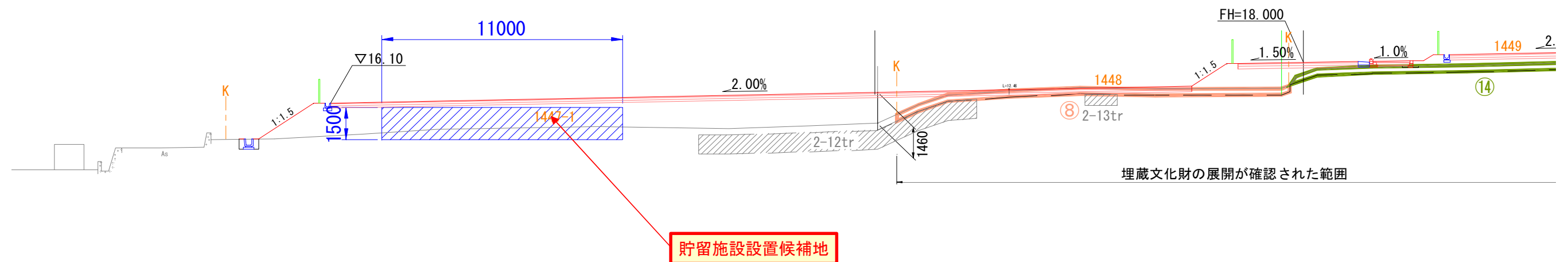
計画平面図



貯留施設の例

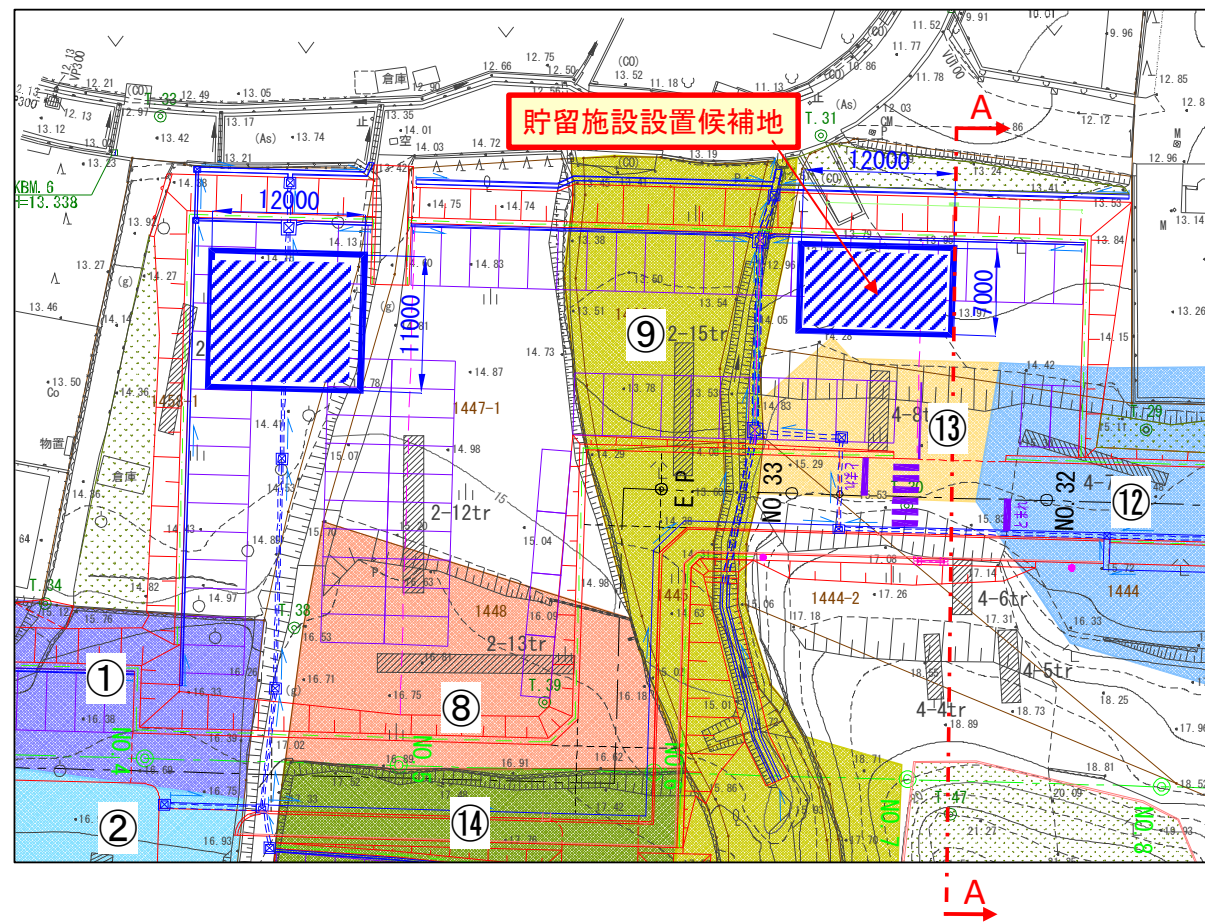


A - A 断面

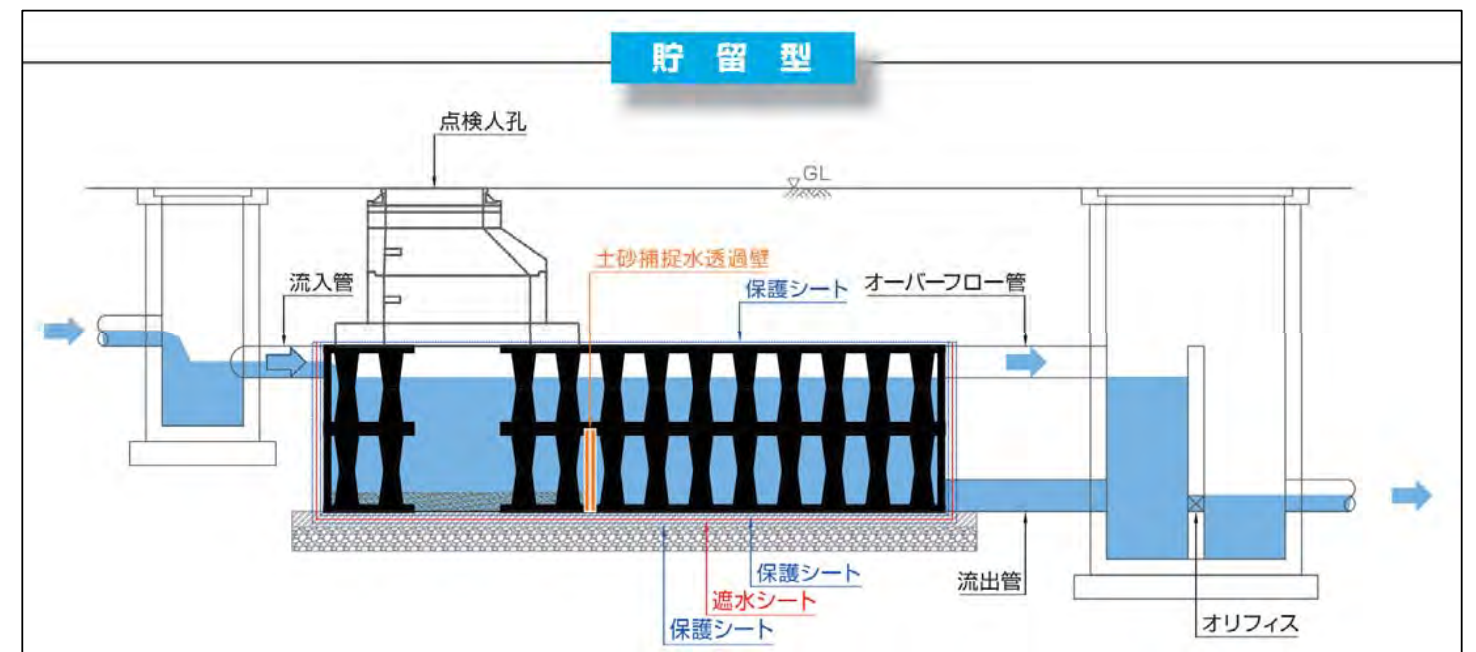


調整池計画（流域D）

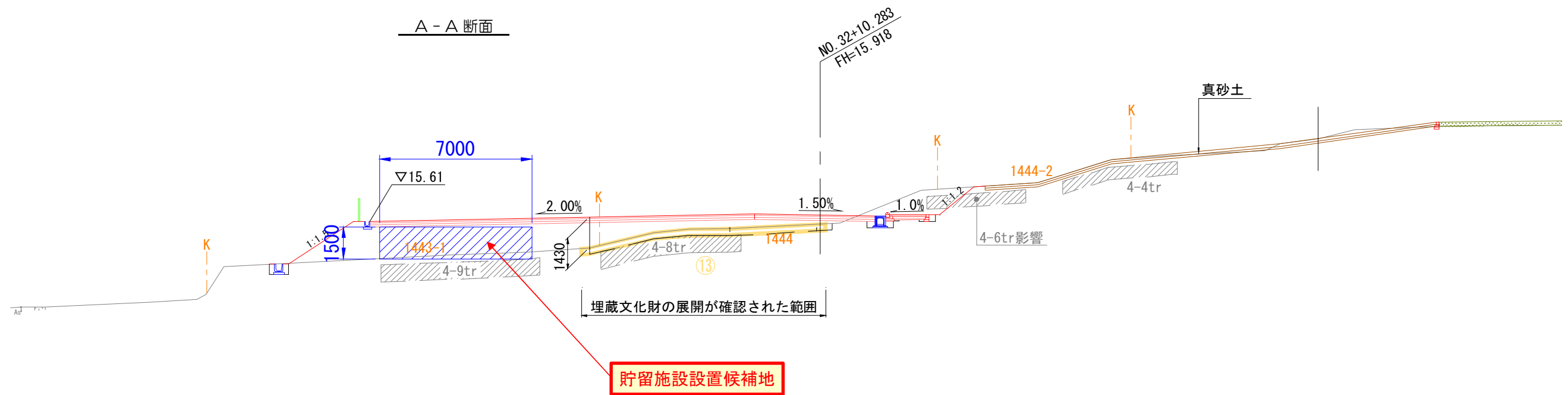
計画平面図



貯留施設の例



A-A 断面



考古民俗博物館（仮称）新築他基本設計業務

基本設計書（概要版）

1-1 外観・内観イメージ



鳥瞰イメージ（北東から）
左：博物館（改修） 右：博物館（新築）



内観イメージ 博物館（新築）2F 交流ラウンジ



外観イメージ（南東側）
正面：博物館（新築） 右：博物館（改修）



内観イメージ 博物館（新築）1F エントランスホール

1-2 基本設計コンセプト

公開承認施設としての施設づくり（博物館（新築））

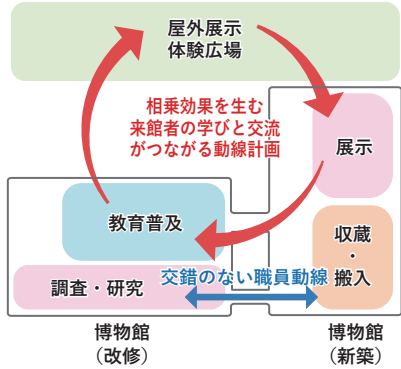
- ・公開承認施設（文化財保護法第 53 条）を前提とした展示・収蔵環境の設計を行います。
- ・収蔵庫及び展示室の外壁は二重壁（ダブルスキン）とし、日射の影響を遮蔽し、安定した室内環境を確保します。
- ・敷地は土石流危険区域のため、展示室や収蔵庫は 2 階以上の上階に配置します。

特別史跡に隣接する立地に配慮した、土地に影響の少ない建築構成

- ・特別史跡 岩橋千塚古墳群に隣接し、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する重要な敷地にあることを前提に、工事による文化財や景観への影響を最小限にとどめる計画とします。
- ・新館は建築面積を最小限とする地上 3 階建てとし、掘削する地表面積を減らし、埋蔵文化財の保護にも十分配慮します。

博物館（新築）と現資料館の一体的な連携利用により相乗効果を生み出す平面計画

- ・博物館（新築）で貴重な文化財の安全な展示・収蔵を行い、現資料館で教育普及と調査研究を行う計画とします。
- ・役割分担を明確化した上で渡り廊下で施設を一体化することで、さまざまな文化財や民俗資料を展示する展示部門と古墳群の情報などを調べることができるライブラリーや講堂といった教育普及部門が相乗効果を生み出す、学びと交流の拠点とします。



収蔵・調査研究部門の明快な分離と安全なセキュリティ

- ・博物館（新築）への搬入から収蔵庫、博物館（改修）の調査・研究エリア（文化財修復室など）への動線を来館者動線と明確に分離し、セキュリティを完備した収蔵・調査研究環境を整備します。

県産木材を活かした博物館づくり

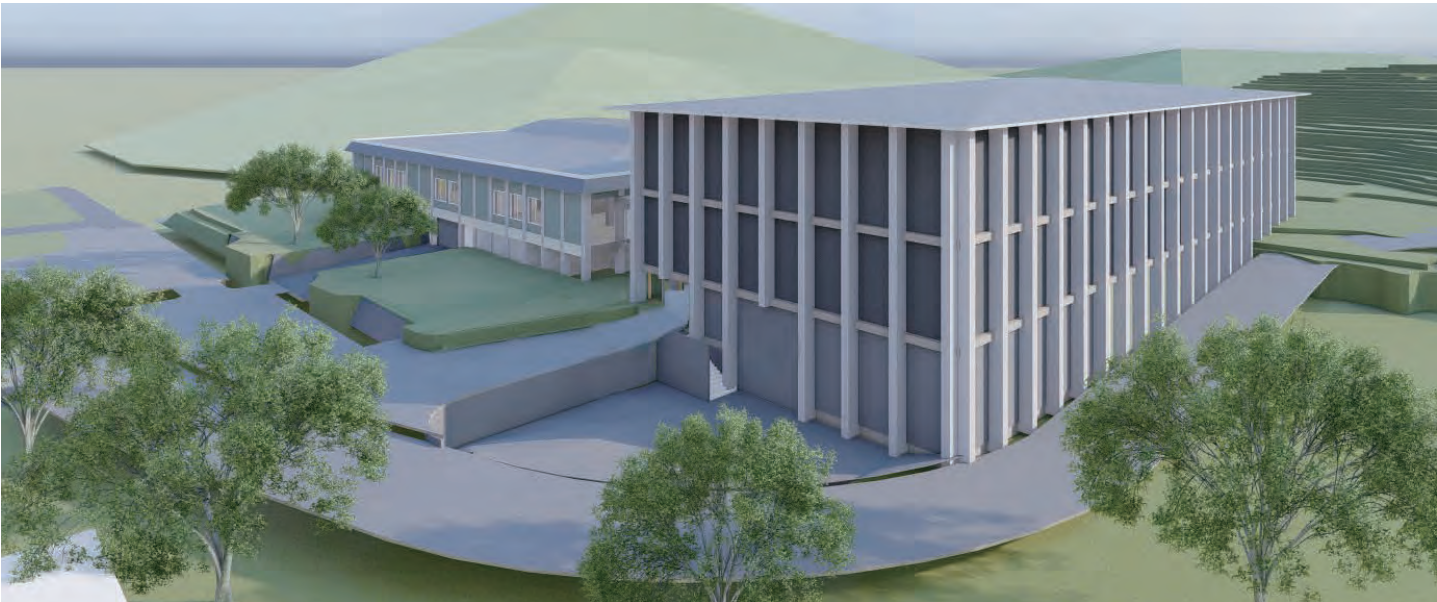
- ・資料の保存環境に配慮し、博物館（新築）1 階エントランスホールや博物館（改修）の内装材等に県産木材を利用し、木質化を図ります。

だれもが使いやすい博物館づくり

- ・バリアフリーに配慮した誰もが使いやすい施設とするため、博物館（新築）と博物館（改修）をバリアフリーで行き来できる動線をはじめとして、駐車場、便所、サイン等について博物館（新築）と博物館（改修）を一体的に計画します。

1-3 デザインコンセプト

- ・現資料館の西に隣接して配置される新博物館は、渡り廊下で新旧が一体化された紀伊風土記の丘の拠点を再整備するものです。
- ・現資料館は長年にわたり県民に親しまれてきた登録有形文化財の建築であり、均等に配置された鉄筋コンクリートの柱と水平の軒庇による構成と地元原産である青石の小口積みの外壁によるテクスチャーが特徴で、高床式倉庫をモチーフに計画されています。
- ・博物館（新築）では現資料館（博物館（改修））と調和した一体的な施設づくりに配慮し、外周の細柱による柱列と文化財を守る二重屋根の軒庇による水平垂直の伝統的な構成によるデザインとしています。博物館（新築）の南北をつなぐ交流ラウンジは透明度の高いガラス張りの空間とし、古墳群のある丘陵の風景を景観展示として内外をつなぎ、現資料館（博物館（改修））と結ばれた回遊動線として新旧をスムーズにつなぎます。敷地の傾斜に合わせて配置した 1 階部分の多くはピロティとし、建設による掘削土を減らすとともに文化財を自然災害から守る現代的な高床式の構造計画としています。
- ・新しい空間が融合し、紀伊風土記の丘の魅力をさらに向上することを目指します。



1-4 計画概要

(1) 建設地の敷地概要

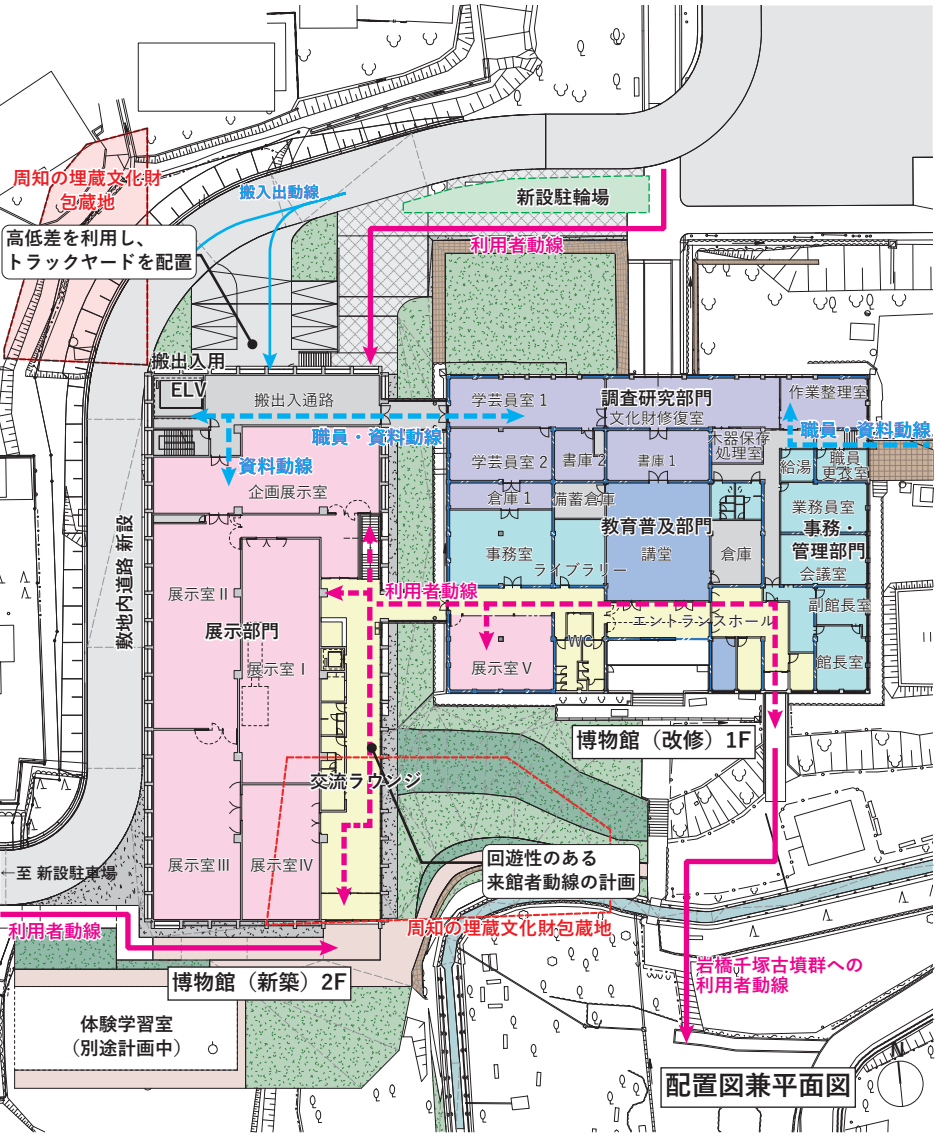
所在地	和歌山市岩橋地内
防火地域	法 22 条区域
道路幅員	5.15m(前願申請書より)
敷地面積	422,386.43 ㎡（CAD 求積に拠る）
用途地域	指定なし
その他地域区域	都市計画区域内、市街化調整区域 宅地造成工事規制区域 土石流危険区域 周知の埋蔵文化財包蔵地
建ぺい率	60％
容積率	200％

(2) 建築概要

主要用途	博物館
工事種別	増築
建築面積	博物館（新築）：1,716.26 ㎡ 博物館（改修）：1,592.52 ㎡ 建築面積合計：3,308.78
床面積	博物館（新築）：3,985.53 ㎡ （博物館：3,775.63 ㎡） （1F ピロティ駐車場：209.90 ㎡） 博物館（改修）：2,357.45 ㎡ 床面積合計：6,342.98 ㎡
建物高さ	19.00m
階数	地上 3 階
主要構造	鉄筋コンクリート造

2-1 配置計画

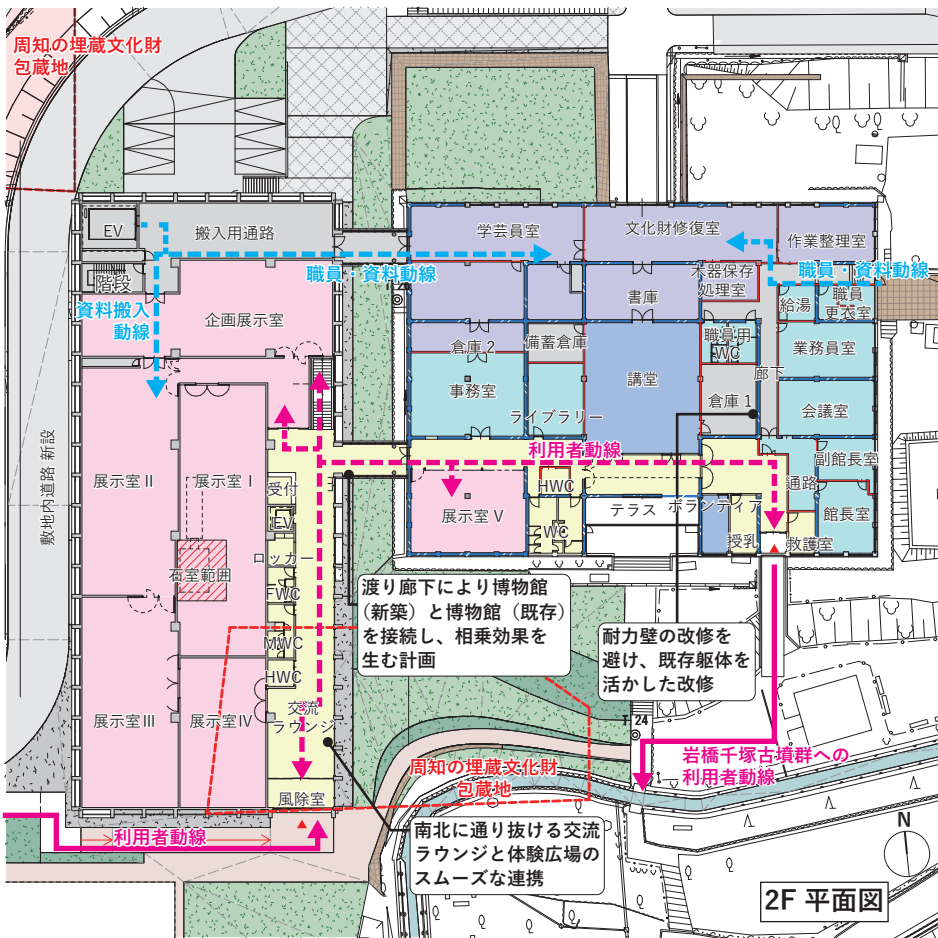
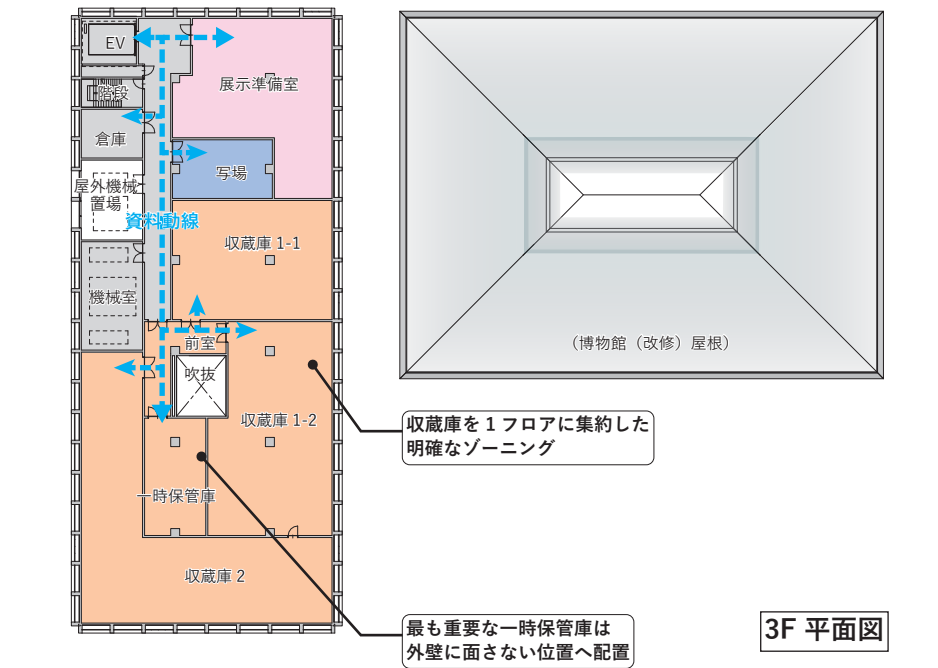
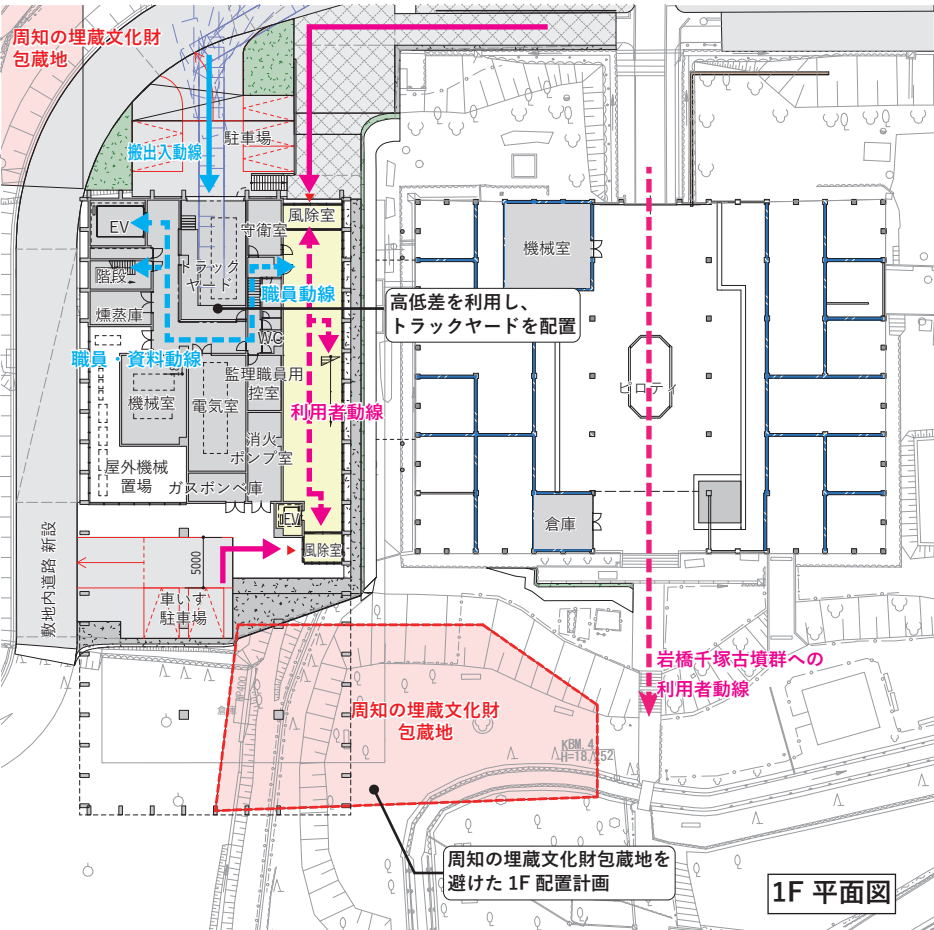
- ・博物館（新築）と博物館（改修）は建物壁面のラインを揃えることで、博物館（改修）と一体感のある配置計画とします。
- ・博物館（新築）は建物の南北に出入口を設け、バスや自転車での来館者（北側）、自動車での来館者（南側）、それぞれがアクセスしやすい建物構成とします。
- ・敷地の高低差を利用し、博物館（改修）1FLと博物館（新築）2FLの床レベルを揃え、渡り廊下により接続することでスムーズに移動できる計画とします。
- ・トラックヤードは敷地の高低差を利用し、10tトラックの高さを確保した効率的な搬出入動線とします。



2-2 平面計画

- 【博物館（新築） 新設計画】
- ・1Fはトラックヤードなどの管理エリアと北側からのエントランスを設けた共用部とします。
 - ・1Fのピロティ部分に車いす駐車場（2台）を設けます。
 - ・2F交流ラウンジ（共用部）は建物の中心となるよう、建物南北の出入口からのエントランスホールとして、展示室への受付、休憩スペース、ロッカー等を計画します。
 - ・3Fに収蔵庫を集約した分かりやすいゾーニングを行うことで、利用者と職員・資料の動線を明確に分けます。

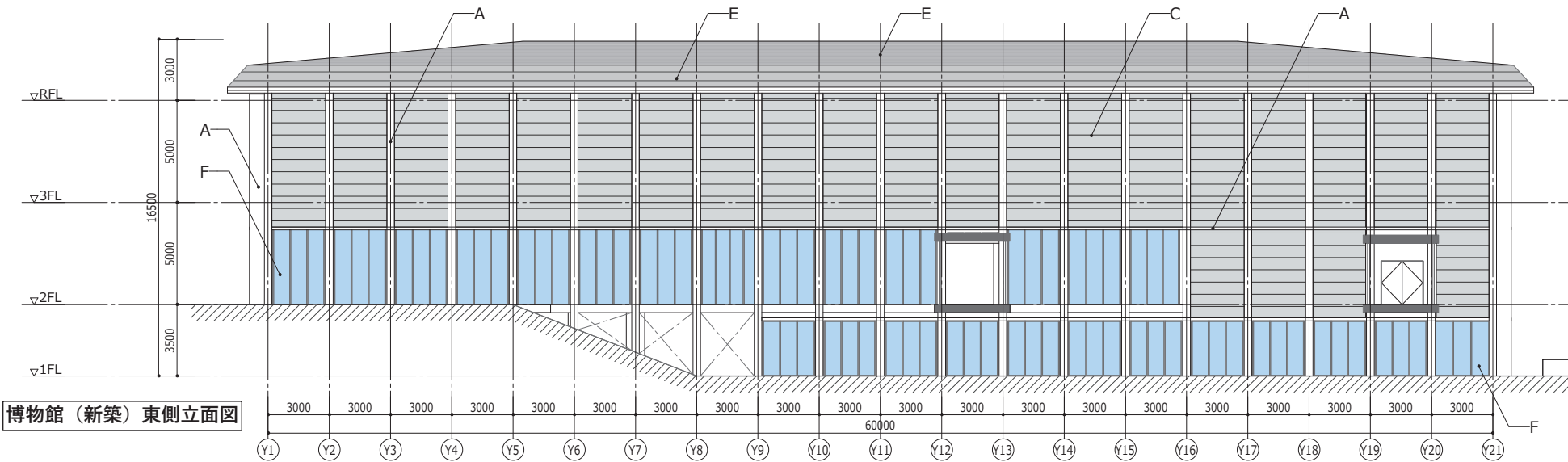
- 【博物館（改修） 改修計画】
- ・既存耐力壁（RC壁）への改修は極力避け、既存躯体を活かした改修とします。
 - ・博物館（新築）との関係を考慮し、建物北側は調査研究部門や事務や管理部門を再配置、建物南側には教育部門や共用部を配置することで、利用者と職員、資料動線を区分し、渡り廊下を介した連携を取りやすいゾーニングとします。



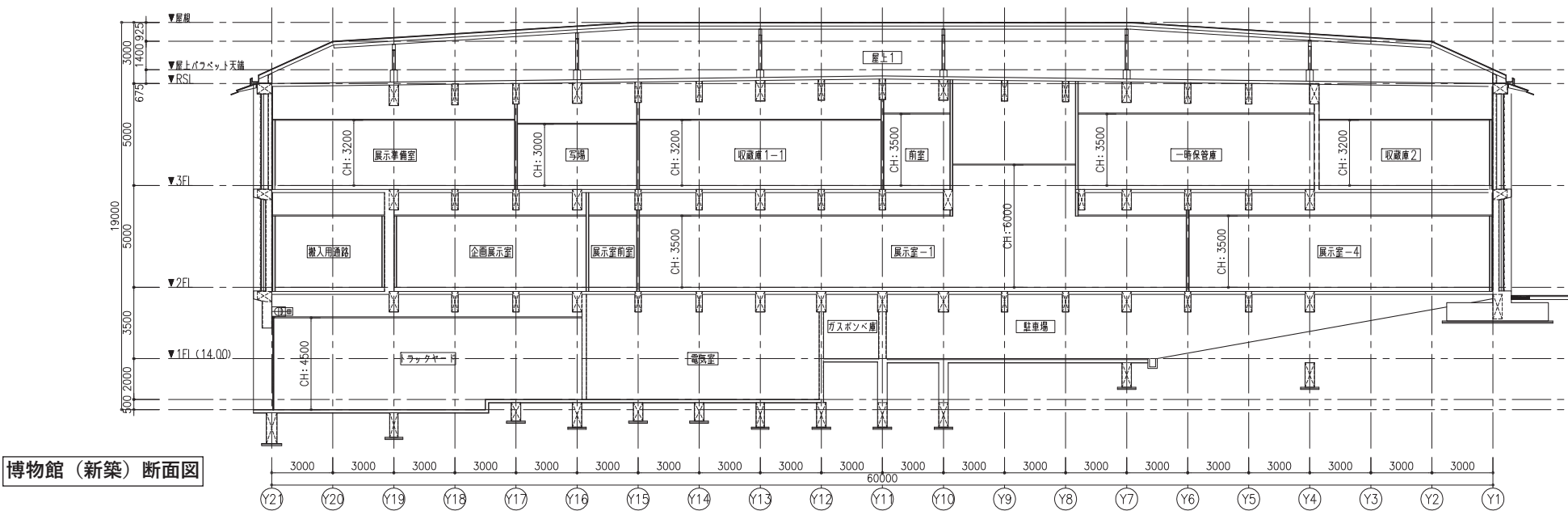
2-3 立面計画

- ・博物館（新築）は登録有形文化財である博物館（改修／松下記念資料館）の設計思想を踏襲、特徴ある列柱をモチーフとした外観とすることで、デザインの継承を目指します。
- ・展示室、収蔵庫のある 2F、3F は金属外壁による二重外壁（ダブルスキン）を検討し、確実に収蔵品を守る構成とします。

- 仕上凡例
- A（外壁）：コンクリート打放の上、フッ素クリア塗装仕上げ
 - B（外壁）：コンクリート打放の上、DP仕上
 - C（外壁）：Mg2%添加カラーガルバリウム銅板
 - E（屋根）：Mg2%添加カラーガルバリウム銅板
 - F（建具）：ALサッシ、電解2次着色
 - G（建具）：St製溶融亜鉛メッキの上、リン酸処理仕上
 - H（建具）：オートドア、SUS製フッ素樹脂仕上
 - I（その他）：既製品目隠しルーバー（AL製電解2次着色）



博物館（新築）東側立面図



博物館（新築）断面図

2-4 断面計画

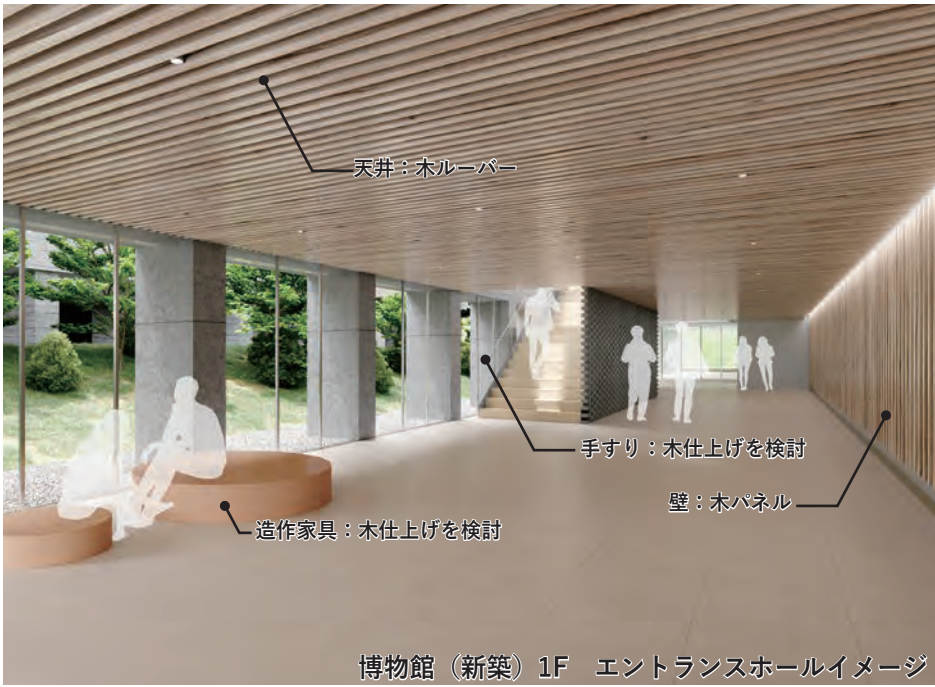
- ・搬入出口は敷地の高低差を利用し、トラックヤードの高さ 4.5m を確保します。
- ・高低差を利用したピロティ空間を車いす駐車場とすることで、雨天時にも雨に濡れず、館内へ移動できる計画とします。
- ・展示室を 2F、収蔵庫を 3F とすることで、万が一の土砂災害や浸水による被害から展示品、収蔵品を守る計画とします。
- ・建物上部は RC 躯体の屋上だけでなく、上部に金属屋根を設けることで、二重の防水計画とします。

2-5 紀州産材利用計画

- ・紀州産材の木材利用を図るため、右記の表の通り、木質化を図ります。
- ・また、階段手すりや造作家具への木材利用を検討します。

紀州産材木材利用箇所リスト		
使用品目	室名	使用量（㎡）
博物館（新築）		
天井ルーバー	ピロティ（駐車場）	44.01
	エントランスホール	
木パネル	エントランスホール	0.82
博物館（改修）		
木パネル （不燃材含む）	展示室Ⅴ	1.16
	ライブラリー	
	講堂	
	館長室	
	副館長室	
	廊下1（1-1、1-2）	
合計		45.99

紀州産材木材利用検討リスト	
使用箇所	使用品目
床	複合フローリング
その他	手すり
	造作家具
等	



3-1 構造概要

- (1) 架構計画
- 構造種別：鉄筋コンクリート造（RC 造）※渡り廊下は鉄骨造（S 造）、構造形式：耐震壁付きラーメン架構
 - ・収蔵品を守る博物館としての機能性や、耐震性、防耐火性に考慮して、RC 造を採用します。
 - ・建物外壁や内部間仕切り壁等を耐震壁として積極的に活用し、強度抵抗型の架構を構築します。
 - ・基礎形式は、建物重量を確実に支持地盤に伝え、建物の安全性を十分に確保できる工法とします。
 - ・博物館（新築）と渡り廊下を一体とし、博物館（改修）とは Exp.J により構造上別棟とします。

(2) 耐震性能目標

部位	分類	分類	用途係数
構造体	Ⅱ 類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られている。	1.25
非構造部材	B 類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られている。	-
建築設備	乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られる。	-

(3) 荷重条件

- ・固定荷重：各室仕上から適切に設定します。 積載荷重：建築基準法等を参考に適切に設定します。
- ・積雪荷重：垂直積雪量 30cm・単位積雪荷重 20N/m2/cm
- ・風圧力 ：基準風速 Vo=34m/s・地表面粗度区分Ⅲとします。
- ・地震力： 一次設計 Co=0.20、Z=1.0 / 二次設計 Qu/Q un≧1.25、I=1.25、Co=1.00

(4) 地盤概要・基礎構造

- ・建設地の地盤は、洪積層の粘性土 (Dc1,Dc2,Dc3) 層・礫質土 (Dg1,Dg2) 層・風化基盤岩 (Gsct,w)・基盤岩 (Gsct) で構成されています。南側は Gsct,w の上層に沖積粘性土 (Ac) 層で構成されています。
- ・基礎形式は直接基礎（布基礎・独立基礎の併用）を想定します。洪積礫質土 (Dg2) 層以深を支持層とし、ラップルコンクリートを設ける計画とします。

3-2 電気設備概要

(1) 電灯設備

- ・一般照明器具は LED 照明とし、一部人感センサ、昼光センサの制御により省エネルギー化を図ります。
- ・照度は、JIS 照度基準総則、照明学会の屋内照明基準等により博物館に適した照明環境を計画します。
- ・博物館（改修） 1 階及びピロティの照明器具は、改修に伴い LED 照明に更新します。
- ・非常照明、誘導灯は、建築基準法、消防法に準拠し設置します。

(2) 動力設備

- ・JIS A4201-2003 に準拠し、雷の直撃及び高電圧から建物を保護するため設置します。
- ・設備機器を落雷時に流れる電流（雷サージ）から保護するため各盤に SPD を設けます。

(3) 受変電設備

- ・不燃化、防災性能を考慮し、モールド変圧器（トップランナー 2014 基準）を設置します。

(4) 発電設備

- ・1 階発電機置場に排煙設備、消火ポンプ（収蔵棟含む）の予備電源として屋外キュービクル型を設置します。
- ・博物館（新築）西側屋根に将来太陽電池アレイを設置可能な計画とします。

(5) 監視カメラ設備

- ・博物館（改修）の ITV カメラを必要箇所に移設または設置し、配管配線を敷設します。
- ・博物館（新築）及びゲートバー、駐車場に設置される ITV カメラの設置及び配管配線を敷設します。

(6) 火災報知設備

- ・博物館（新築）及び博物館（改修）に伴い消防法、建築基準法に準拠し、館内に感知器を設置します。

3-3 機械設備計画概要

(1) 空調和設備

- ・執務エリアについて、各室毎に個別運転が可能であり、省エネルギー・省 CO2 性、メンテナンス性、コスト面から空冷ヒートポンプパッケージエアコン（電気熱源）（以降 EHP）を採用する。
- ・展示室・収蔵庫について、細かな温湿度コントロールが要求されることから冷温水による空調方式とし、省エネルギー性、省 CO2 性、メンテナンス性に考慮し、電気熱源による空冷ヒートポンプチラーを採用する。
- ・展示品及び収蔵品の温湿度特性に対応できるよう、エアハンドリングユニットにて空調を行うこととし、水損事故がない単一ダクト方式とすることで、外気及び室温のコントロールを行う。
- ・執務エリアについては可能な限り全熱交換換気扇を採用し、排熱の改修を積極的に行う一種換気の計画とする。

(2) 自動制御設備

- ・建物内の環境維持や省エネを図り、各空調和設備機器・給排水衛生設備機器類の自動運転制御を行う。
- ・各設備機器の運転状況や各室の温湿度状態の監視、警報信号を取り出すため、博物館（改修）2 階事務室に中央監視設備を設ける。

(3) 排煙設備

- ・建築基準法に準拠し、自然排煙が取れない展示室Ⅰについては機械排煙での計画を行う。

(4) 衛生器具設備

- ・衛生器具は、使い易く、メンテナンスが容易でかつ節水型の器具を適切に配置する。

(5) 給水設備

- ・既設引込 50A については既存利用とする。
- ・既設受水槽は本計画に合う受水槽に更新を行い、既設高架水槽については撤去とすることで、加圧給水方式へ更新を行う。
- ・受水槽は建物用途に見合った鋼板製デザイン受水槽として、外部設置においても景観を損なわない計画とする。

(6) 給湯設備

- ・手洗いや給湯室等の使用量が少ない箇所については台下電気温水器を、シャワー等の使用量が多い箇所については電気式エコ給湯を設置する。

(7) 排水設備

- ・屋内排水について、汚水と雑排水と分流にて屋外へ排水し、屋外で合流した後、浄化槽に放流を行う。

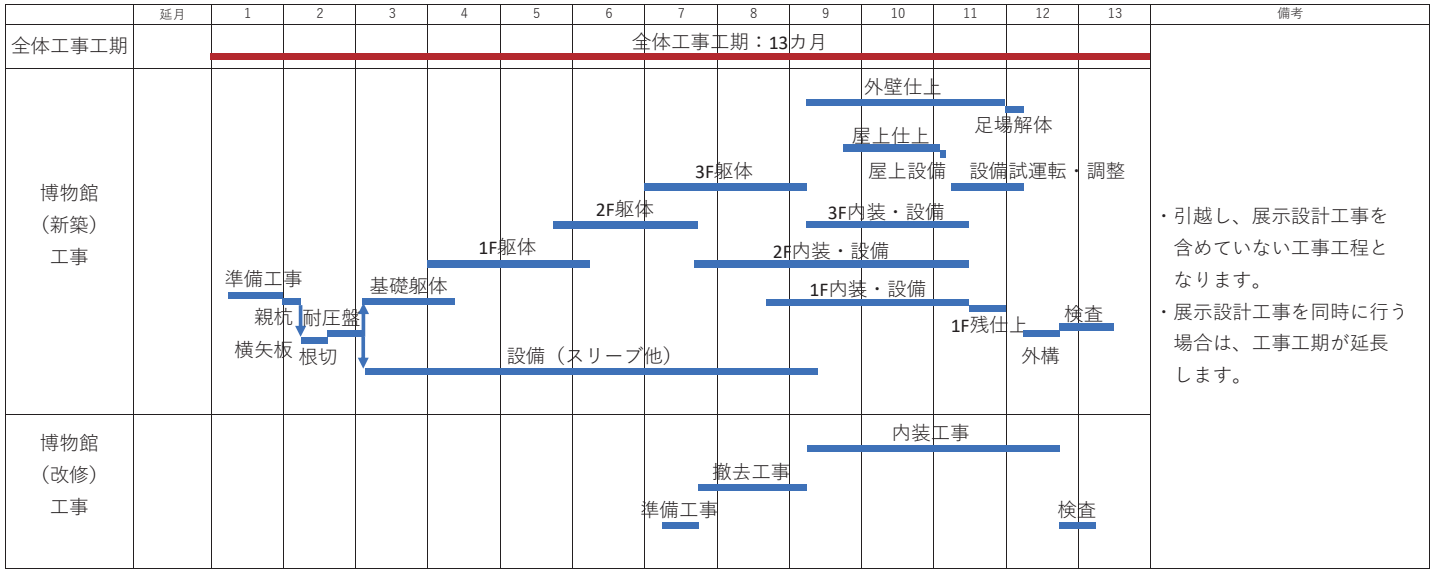
(8) 消火設備

- ・消防法、同施工令、同施行基準に準拠し、消火器、屋内消火栓を設置する。
- ・展示室・収蔵庫を対象に水損による二次災害を防ぐため、N2 消火設備を設ける。

(9) 浄化槽設備

- ・既設浄化槽（135 人槽）のみでの計画とする。

4 概略工事工程表



考古民俗博物館（仮称）収蔵棟新築基本設計業務

基本設計図書抜粋



考古民俗博物館（仮称）収蔵棟新築基本設計業務

3.仕様概要書

■収蔵庫棟	
用途	倉庫
高さ	9.050m(A棟) 9.235m(B棟)
主要構造、階数	木造 平屋建て
延べ床面積	997.63㎡(A棟) 782.20㎡(B棟)
■体験学習室棟	
用途	博物館
高さ	5.470m
主要構造、階数	木造 平屋建て
延べ床面積	223.58㎡

4.仕上概要書

外部仕上表（収蔵庫棟）

屋根	ガルバリウム鋼板 t=0.4 嵌合式縦葺（不燃） 改質アスファルトルーフィング 野地板：構造用合板	軒天	ケイカル板 t=6 EP塗装	縦樋	カラーVP125φ		
軒先、ケラハ	ガルバリウム鋼板 t=0.4	巾木 （基礎表面）	コンクリート打放し 撥水剤吹付				
外壁	窯業系サイディング t=16（通気工法）透湿防水シート 構造用合板 延焼ラインが掛る面に関しては室内石膏ボード貼り	軒樋	角型 塩ビ製 前高200				

室内仕上表（収蔵庫棟）

	室名	天井高	床		巾木		壁		天井		廻り縁	付属器具その他
			下地	仕上げ	仕上げ	寸法	下地	仕上げ	下地	仕上げ		
	収蔵庫A	5.676		コンクリート金コ押し	コンクリート打放し			木材現し 延焼ラインのかかる部分石膏ボード		木材現し	天井無	
	収蔵庫B	5.932 5.730		コンクリート金コ押し	コンクリート打放し			木材現し 延焼ラインのかかる部分石膏ボード		木材現し	天井無	

外部仕上表（体験学習棟）

屋根	粘土瓦葺（桟瓦） 改質アスファルトルーフィング 野地板：構造用合板	軒天	ケイカル板 t=6 EP塗装	縦樋	カラーVP100φ		
軒先、ケラハ	ガルバリウム鋼板 t=0.4	巾木 （基礎表面）	コンクリート打放し 撥水剤吹付				
外壁	窯業系サイディング t=16（通気工法）透湿防水シート 構造用合板 一部 木板貼り	軒樋	角型 塩ビ製 前高150				

室内仕上表（体験学習棟）

	室名	天井高	床		巾木		壁		天井		廻り縁	付属器具その他
			下地	仕上げ	仕上げ	寸法	下地	仕上げ	下地	仕上げ		
	男子便所	5.025		コンクリート金コ押し	コンクリート打放し		石膏ボード 12.5	EP塗装		木材現し	木製	
	女子便所	4.167		コンクリート金コ押し	コンクリート打放し		石膏ボード 12.5	EP塗装		木材現し	木製	
	多目的便所	4.075		コンクリート金コ押し	コンクリート打放し		石膏ボード 12.5	EP塗装		木材現し	木製	
	体験学習室	4.440		コンクリート金コ押し 防塵塗装	コンクリート打放し		断熱材グラスウール50mm 石膏ボード 12.5	ビニルクロス	断熱材グラスウール50mm	木材現し	木製	
	作業場	2.650		コンクリート金コ押し	コンクリート打放し		LGS+石膏ボード 12.5(不燃)	素地のまま	LGS+石膏ボード 12.5(不燃)	素地のまま	塩ビ	

業務名	考古民俗博物館（仮称）収蔵棟新築基本設計業務			検 印 欄	
図面名称	仕様概要書・仕上概要書				
縮 尺	A3 -	図面番号	A-07		
		担当技術者	主任技術者	担 当	

考古民俗博物館（仮称）収蔵棟新築基本設計業務

1. 与条件の整理

【収蔵庫棟】

収蔵庫棟には主に地中埋設物、民具が収蔵される。
埋設物はコンテナに収蔵され、コンテナの大きさによって什器が計画されている。
来館者の見学等は無く、博物館関係者の利用しか無い。
また、比較的重要度の低い物が収蔵される為、湿度、温度等の管理はない。



埋設物 1



埋設物 2

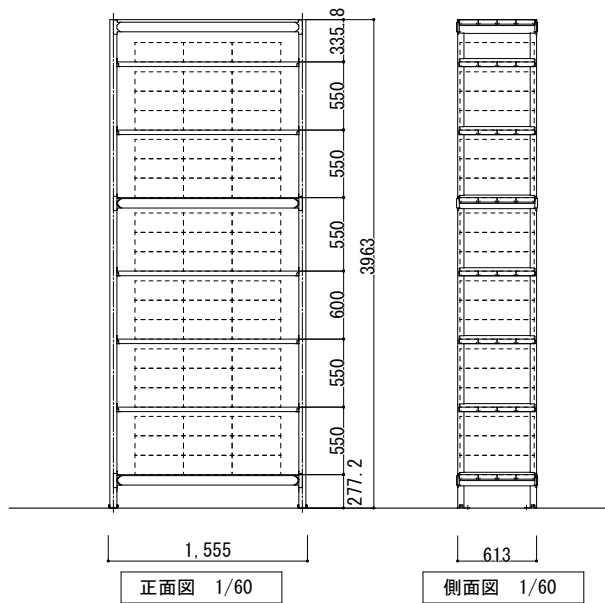


民具 1



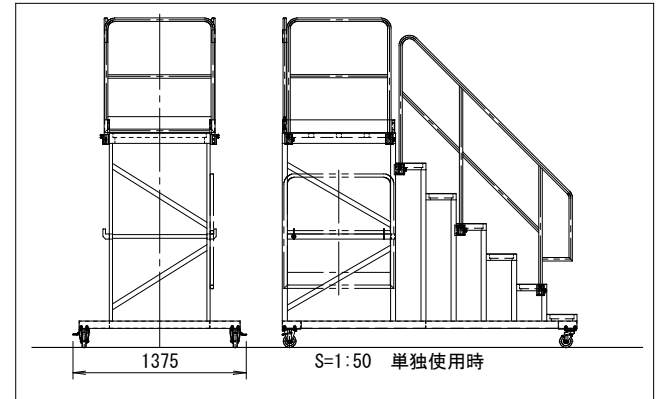
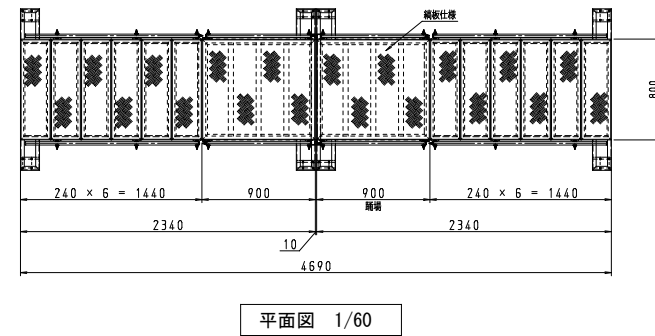
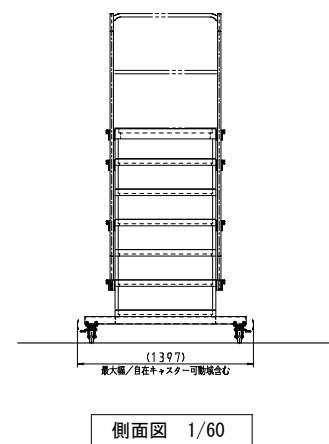
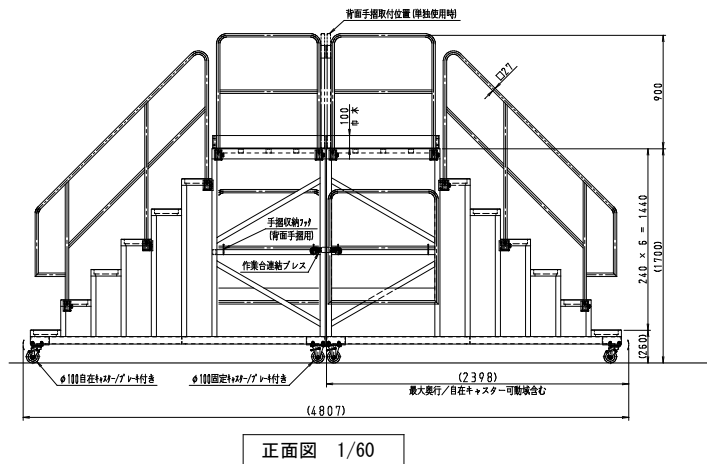
民具 2

【収蔵庫什器】

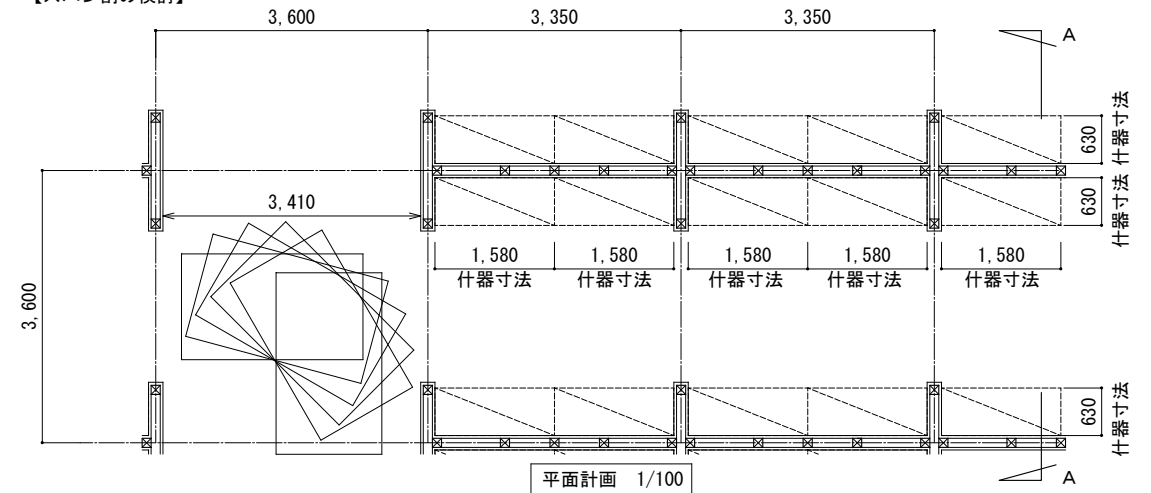


- ＜基本仕様＞
- ・什器本体 : スチール（粉体塗装）
 - ・棚板 : スチール（粉体塗装）
 - ・棚荷重 : 300kg/段
 - ・棚可動ピッチ : 30mm
 - ・落下防止 :
- 棚本体 : W1500xD613xH3963
コンテナ : W386xD590xH154
57箱/連
- 新規収蔵棟
必要連数：必要箱数28,032箱÷57箱/連÷492連
468連で良い。

【収蔵庫移動足場】

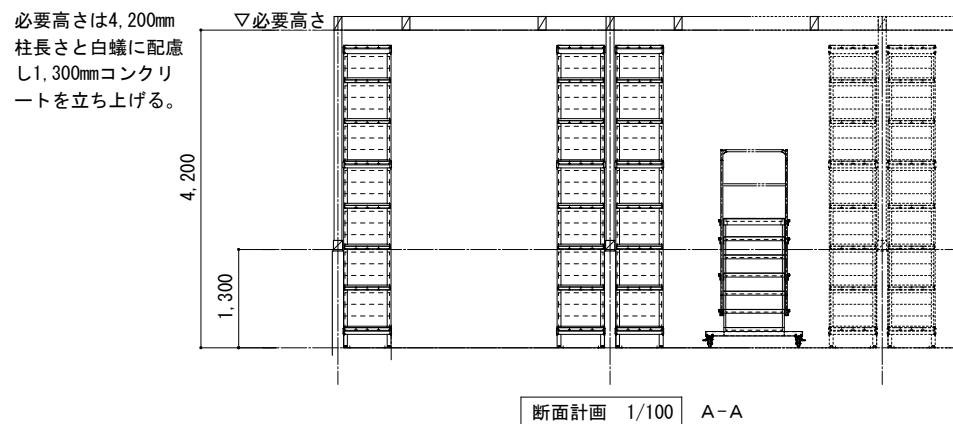


【スパン割の検討】



柱スパンは最長で3,600mm(二間)程度とし無理のないスパン計画とする。
梁成をおさえて流通材の使用に配慮する。
また、足場回転通路として建物中央部に有効3,400程度の通路を設ける。

【室内高さの検討】



【大型 収蔵物について】

筋違い、柱を一部分取り除く事で対応。
筋違い無し・中央柱無し：隣り合わせ背中合わせ4台利用 15か所
筋違い無し：背中合わせ2台利用 18か所

業 務 名		考古民俗博物館(仮称)収蔵棟新築基本設計業務			検 印 欄
図 面 名 称		計 画 説 明 書 2			
縮 尺		A3	図 面 番 号	A-02	
		担当技術者	主任技術者	担 当	

考古民俗博物館（仮称）収蔵棟新築基本設計業務

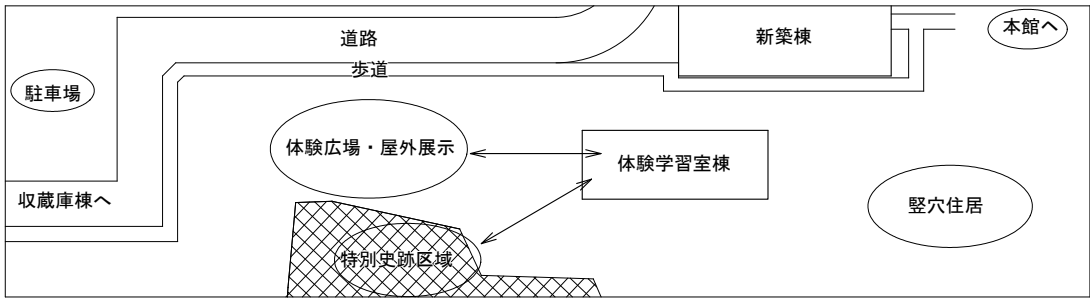
1. 与条件の整理

【体験学習室棟】

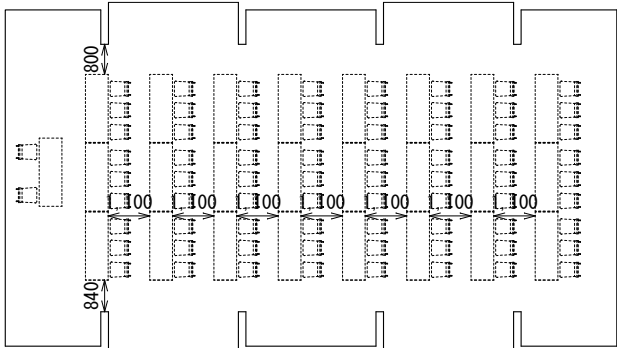
体験学習室棟は3つの空間からなる。便所、体験学習室、作業場である。



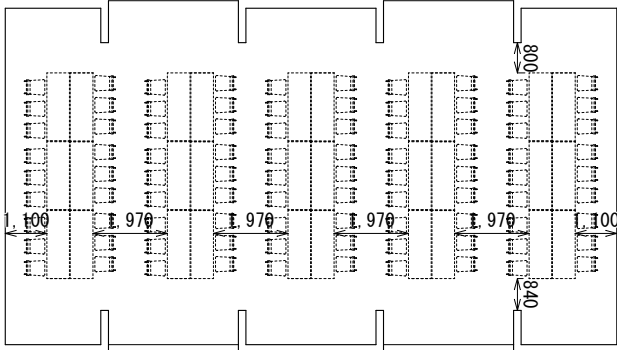
便所は体験学習室利用者、史跡、体験広場でのフィールドワークを行う事から外向きに計画した。



体験学習室では、埴輪制作、勾玉造り、史跡の講義、グループでの作業等がありmaxで90人程度の利用が考えられる。部屋で分けるのではなく、大きなワンルームとし様々な使い方、使い分けができるように考えた。



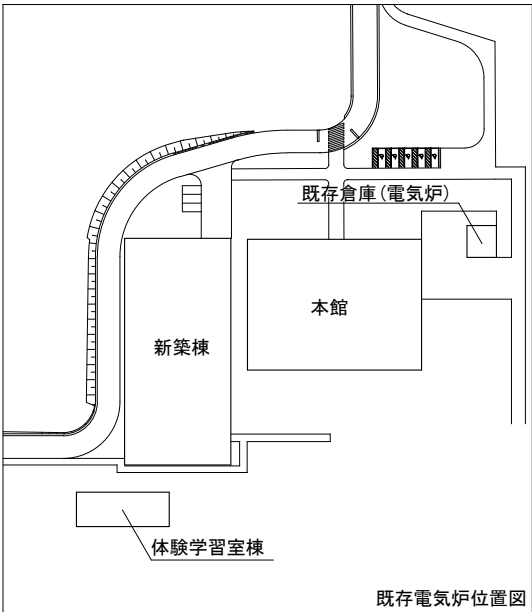
講義時の配置



制作時の配置

机 W1800xD600 折り畳み時 厚100
30台

作業場は、埴輪を焼く場所である。既存電気炉を移動し設置する。
基本的には電気炉使用中は危険な為、職員の利用のみで来館者、利用者が入る事は無い。



既存電気炉位置図



既存倉庫



既存倉庫

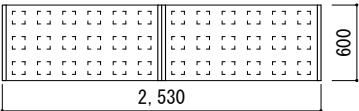


電気炉



電気炉

【体験学習棟 埴輪棚】



平面図 1/60



正面図 1/60

棚は高さ調整が可能となるように可動式とする。
埴輪サイズ 100x100xH210 程度
200体収納

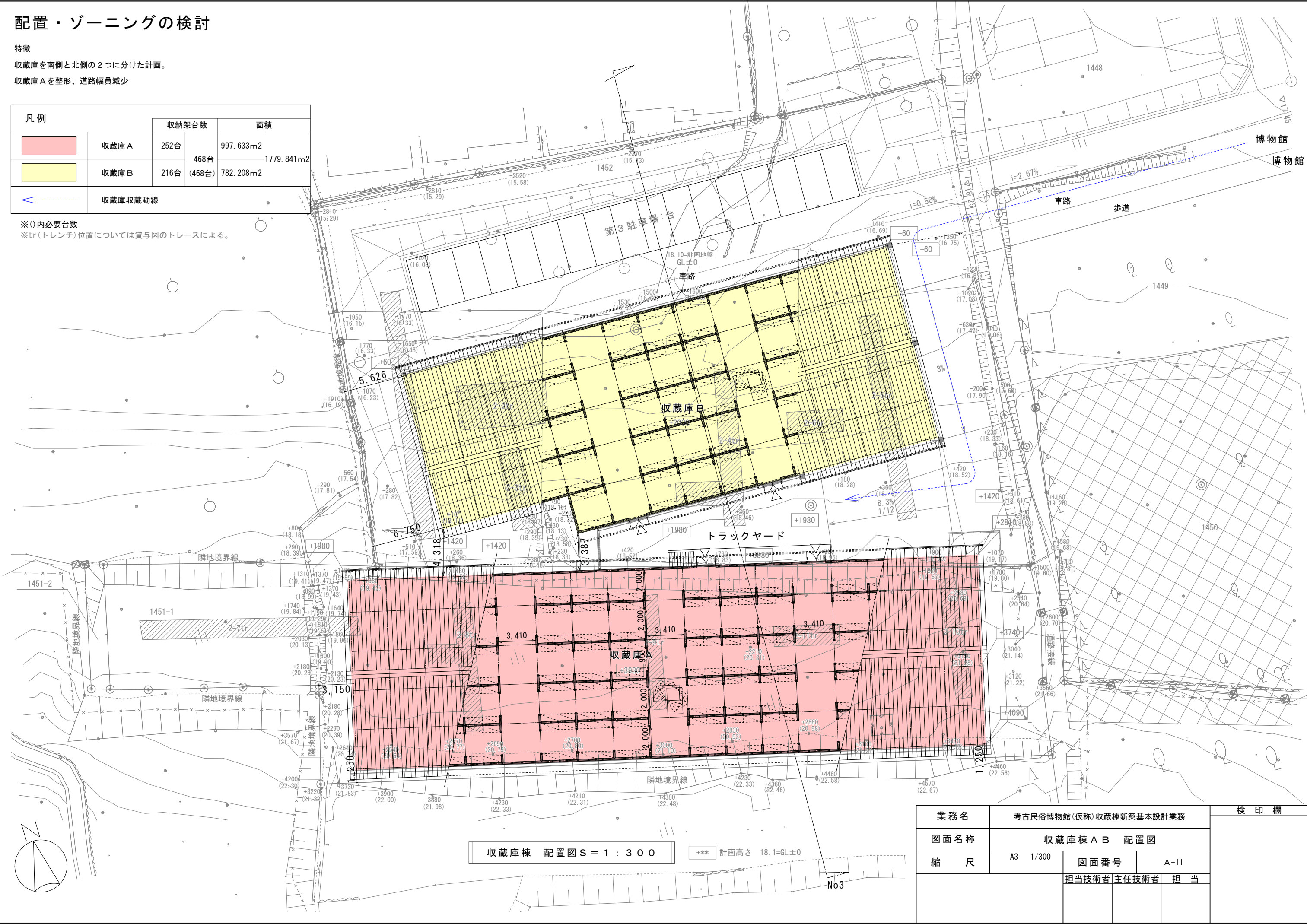
業務名	考古民俗博物館(仮称)収蔵棟新築基本設計業務			検 印 欄	
図面名称	計画説明書 3				
縮 尺	A3	-	図面番号	A-03	
			担当技術者	主任技術者	担 当

配置・ゾーニングの検討

特徴
収蔵庫を南側と北側の2つに分けた計画。
収蔵庫Aを整形、道路幅員減少

凡 例		収納架台数		面積	
	収蔵庫A	252台	468台	997.633m2	1779.841m2
	収蔵庫B	216台	(468台)	782.208m2	
	収蔵庫収蔵動線				

※〇内必要台数
※tr(トレンチ)位置については貸与図のトレースによる。

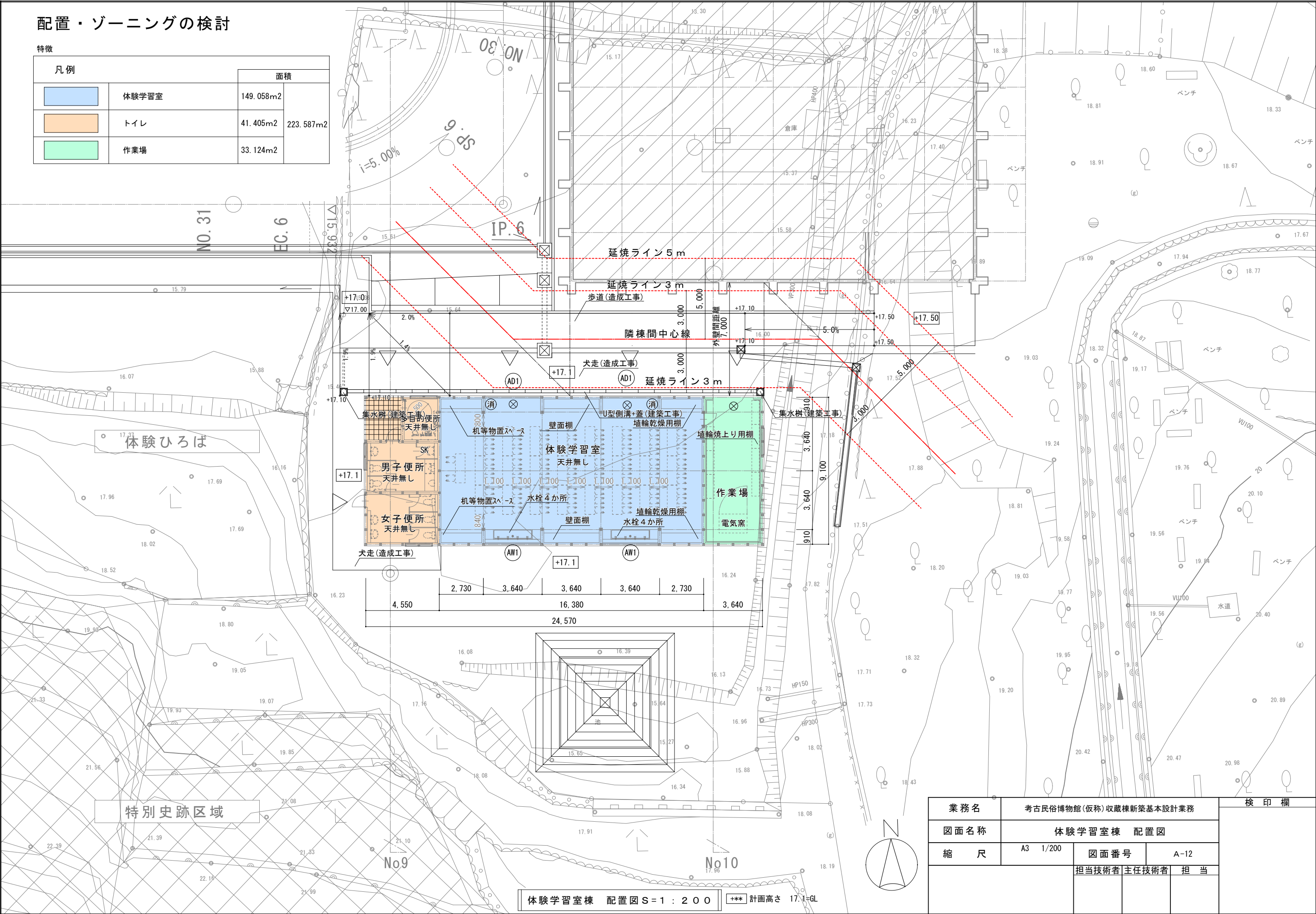


業 務 名		考古民俗博物館(仮称)収蔵棟新築基本設計業務		検 印 欄	
図面名称		収蔵庫棟A B 配置図			
縮 尺	A3 1/300	図面番号		A-11	
		担当技術者	主任技術者	担 当	

配置・ゾーニングの検討

特徴

凡例		面積	
	体験学習室	149.058m ²	223.587m ²
	トイレ	41.405m ²	
	作業場	33.124m ²	



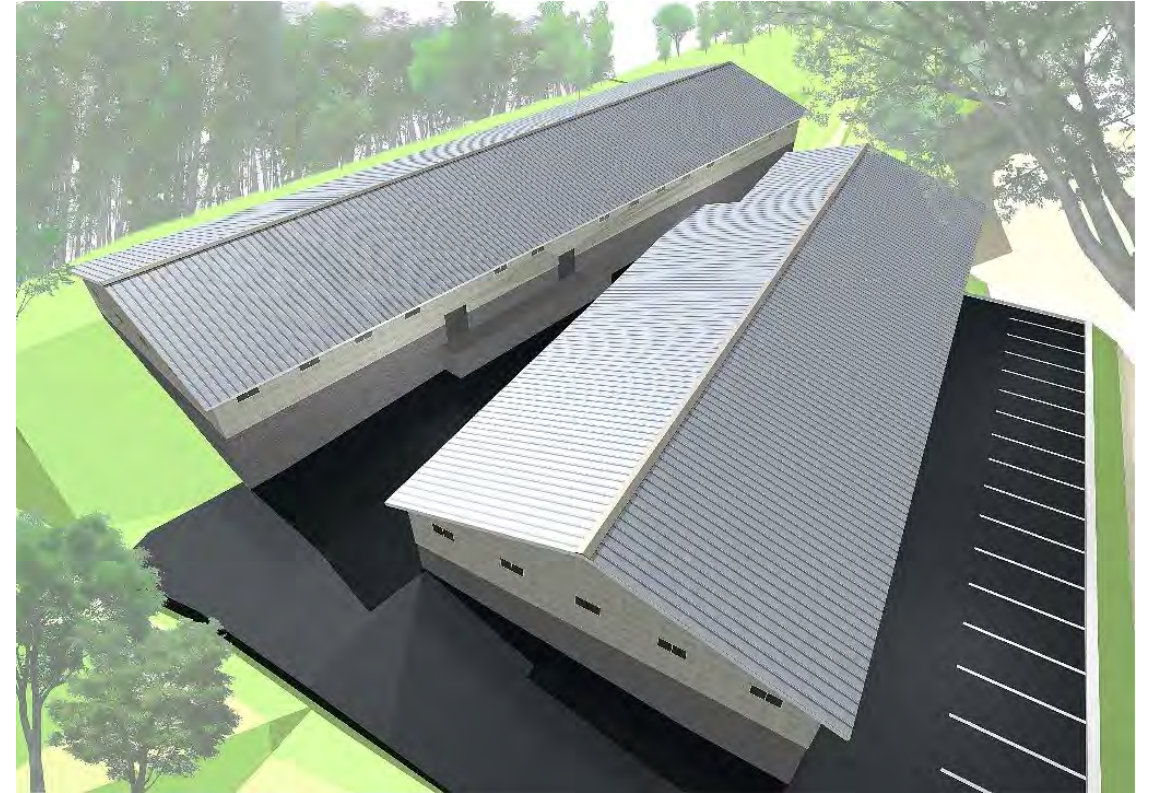
業務名		考古民俗博物館(仮称)収蔵棟新築基本設計業務		検印欄	
図面名称		体験学習室棟 配置図			
縮尺	A3 1/200	図面番号		A-12	
		担当技術者	主任技術者	担当	

体験学習室棟 配置図 S=1 : 200 *** 計画高さ 17.1=GL

イメージ図



収蔵棟鳥観図（東から）



収蔵棟鳥観図（北東から）



収蔵棟内覧イメージ（オープンラック設置前）



体験学習棟（北西から）

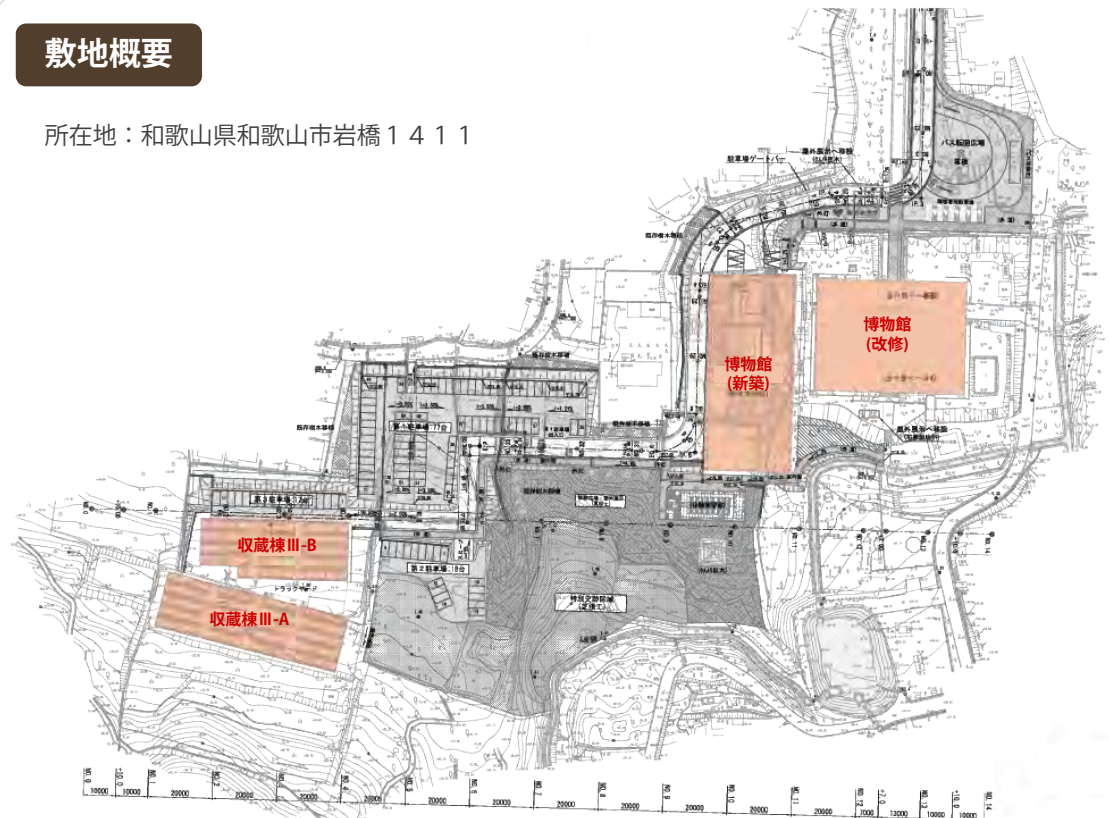
和歌山県立考古民俗博物館（仮称）展示・収蔵設備基本設計業務
基本設計図書

[概要編]

和歌山県立考古民俗博物館(仮称) 展示・収蔵設備 基本設計の概要

敷地概要

所在地：和歌山県和歌山市岩橋1411

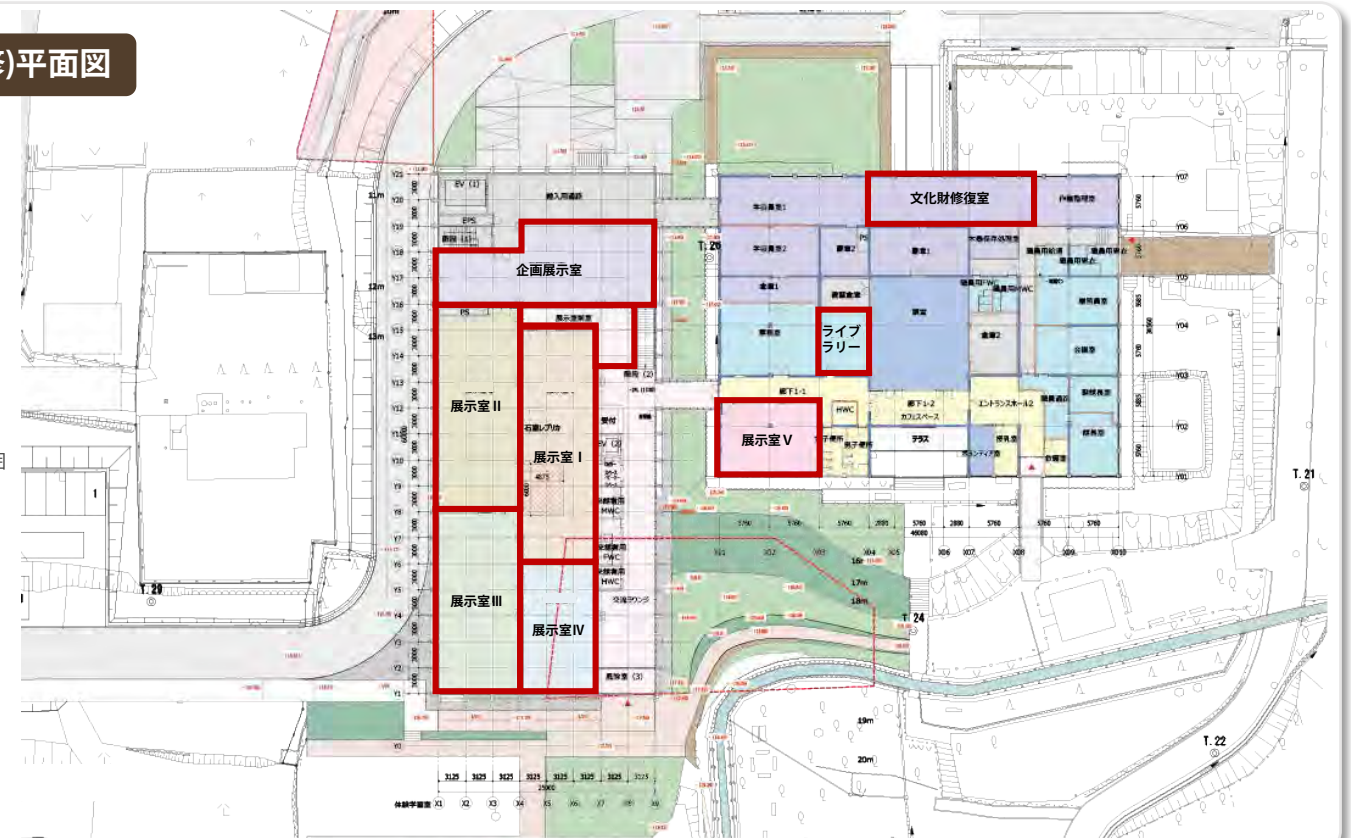


博物館(新築)・博物館(改修)平面図

規模

博物館(改修) : 約1,600㎡
 博物館(新築) : 約3,800㎡
 展示室面積 : 約1,053㎡
 ※現在約450㎡
 収蔵棟(新築) : 約1,000㎡+約800㎡
 体験学習棟(新築) : 約220㎡

※赤枠は展示・収蔵設備基本設計の対象範囲



基本設計の実施方針

多様なフィールド×人々の視点でつくる インクルーシブミュージアム

これまでの実績・強みを活かしながら、あらゆる人が楽しめる施設として強化します。

展示展開の方針

考古・民俗資料と人との関わりを可視化し、資料を通じて歴史やフィールドに思いを馳せる

資料の背後にある「人」の息吹を感じられる展示



資料と人の関係を可視化

映像や模型などを組み合わせ、資料の裏にあるエピソードを引き出して語ります。



屋外のフィールドへの誘導

展示を通じて古墳群や移築民家などのフィールドへの興味を持つきっかけを作ります。



ハンズオン展示の積極的な導入

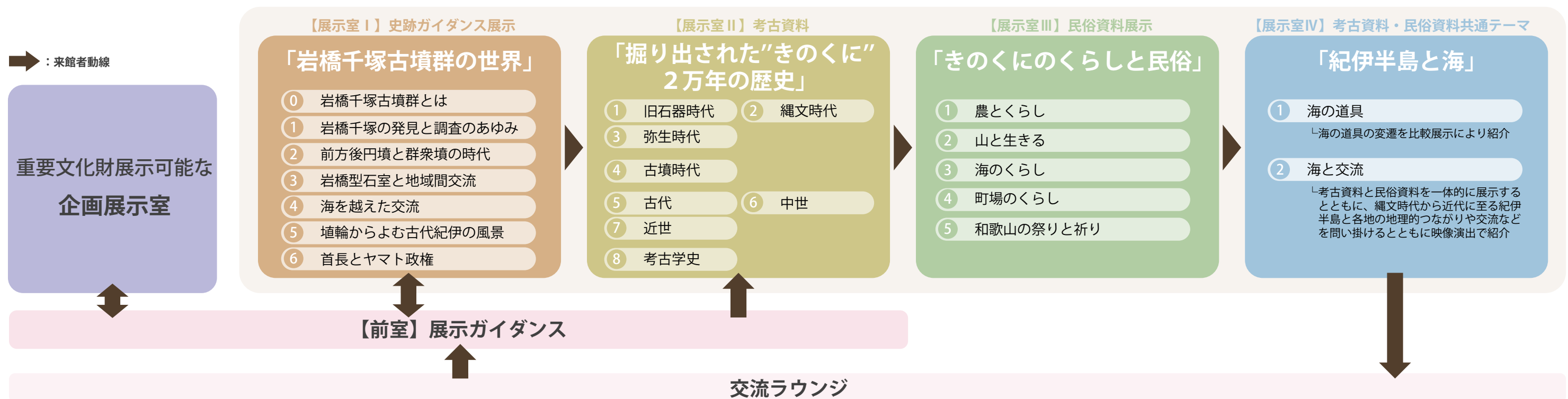
展示の体験性を高め、「見る」より一歩進んだ理解を促します。

資料入替が容易な展示環境

豊富な資料を活かすため、資料入替、展示更新が容易な環境を整備します。

展示室内容と来館者の動線イメージ

➡ : 来館者動線



【展示室Ⅲ】 民俗資料展示「きのくにのくらしと民俗」

和歌山県の風土は大きく「平野部」「山間部」「沿岸部」「町場」から構成されることを伝え、農・山・海・町場の4つの風土の違いと、それぞれが培ってきた文化を伝えます。



主要展示物イメージ

● 『くらしのものがたり展示』

【展示室Ⅱ】 考古資料展示「掘り出された”きのくに”2万年の歴史」

出土資料から歴史を読み解きながら、旧石器時代から近世まで概観。それぞれの時代の暮らしをイメージできるよう、人と資料の関わりを中心に伝えます。

● 『テーマ展示/インクルーシブ展示』



主要展示物イメージ



【展示室Ⅳ】 考古資料・民俗資料共通テーマ「紀伊半島と海」

海とともに生きてきた紀伊半島沿岸部の人々の暮らしを、豊富な資料と映像演出で紹介します。



主要展示物イメージ

● 『海の道具と交流 マッピングシアター』

【展示室Ⅰ】 史跡ガイドス展示「岩橋千塚古墳群の世界」

フィールドワークへ向かう前のガイドスとして、大規模群集墳、岩橋型横穴式石室、特色ある形象埴輪といった、岩橋千塚古墳群の特徴を際立たせて空間を構成。驚きから興味を引き出し、フィールドへの見学へと誘います。

● 『岩橋千塚古墳群 ガイドスシアター』

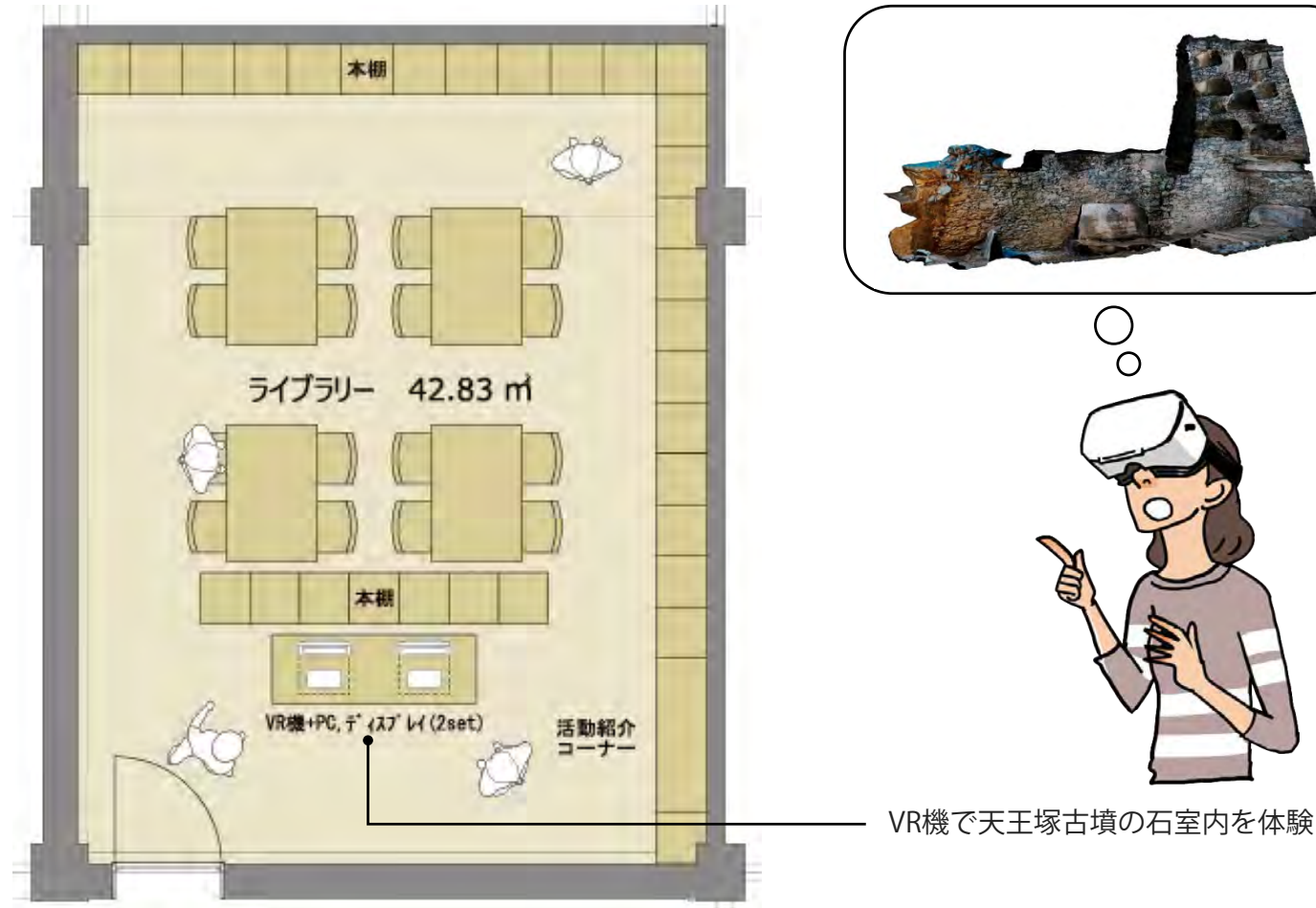
● 『天王塚古墳石室 実物大模型』



主要展示物イメージ

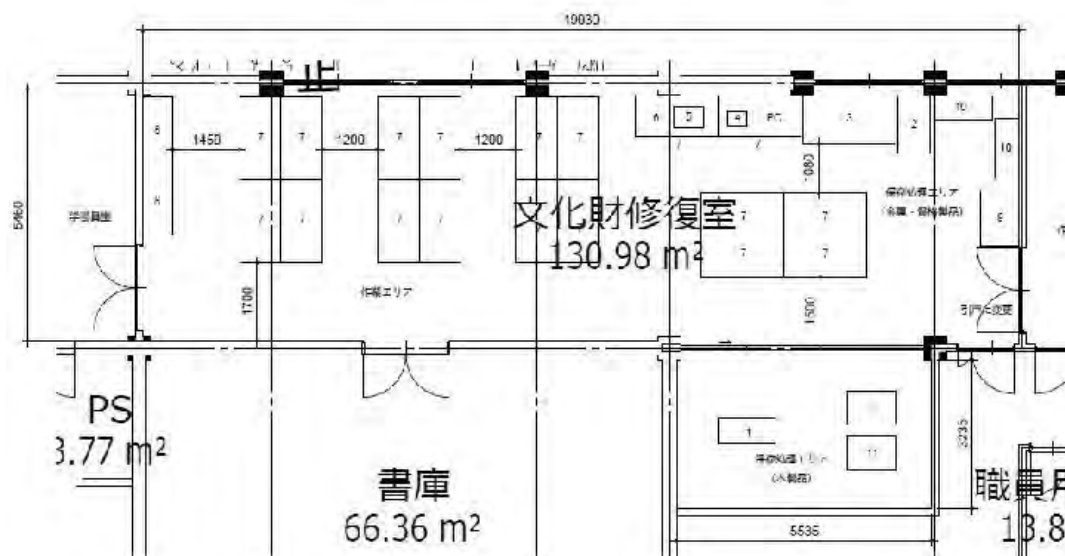
ライブラリー

館蔵本とVRを設置するライブラリー。
老若男女問わず心地よく利用できる場を整えます。



文化財修復室

出土品を保存処理するための必要最低限の機器を整えます。



【必要機能】

金属製品

- ・エックス線透過撮影
- ・クリーニング
- ・脱塩
- ・樹脂含侵

骨角製品

- ・脱塩
- ・樹脂含侵

木製品

- ・糖アルコールの保存処理機能を有する設備

その他

- ・有機溶剤使用時の排気設備

【機器・備品】

- 糖アルコール含侵装置
- 軟X線検査装置
- 局所排気装置
- 作業台 など

【展示室V】 子供博物館

紀伊国わかやまを感じさせる「木」を基調とした世界観の中で、時を超えて和歌山を体験できるアイテムを展開します。

環境テーマ

きのくに

体験アイテムのテーマ①

考古
古墳と埴輪

体験アイテムのテーマ②

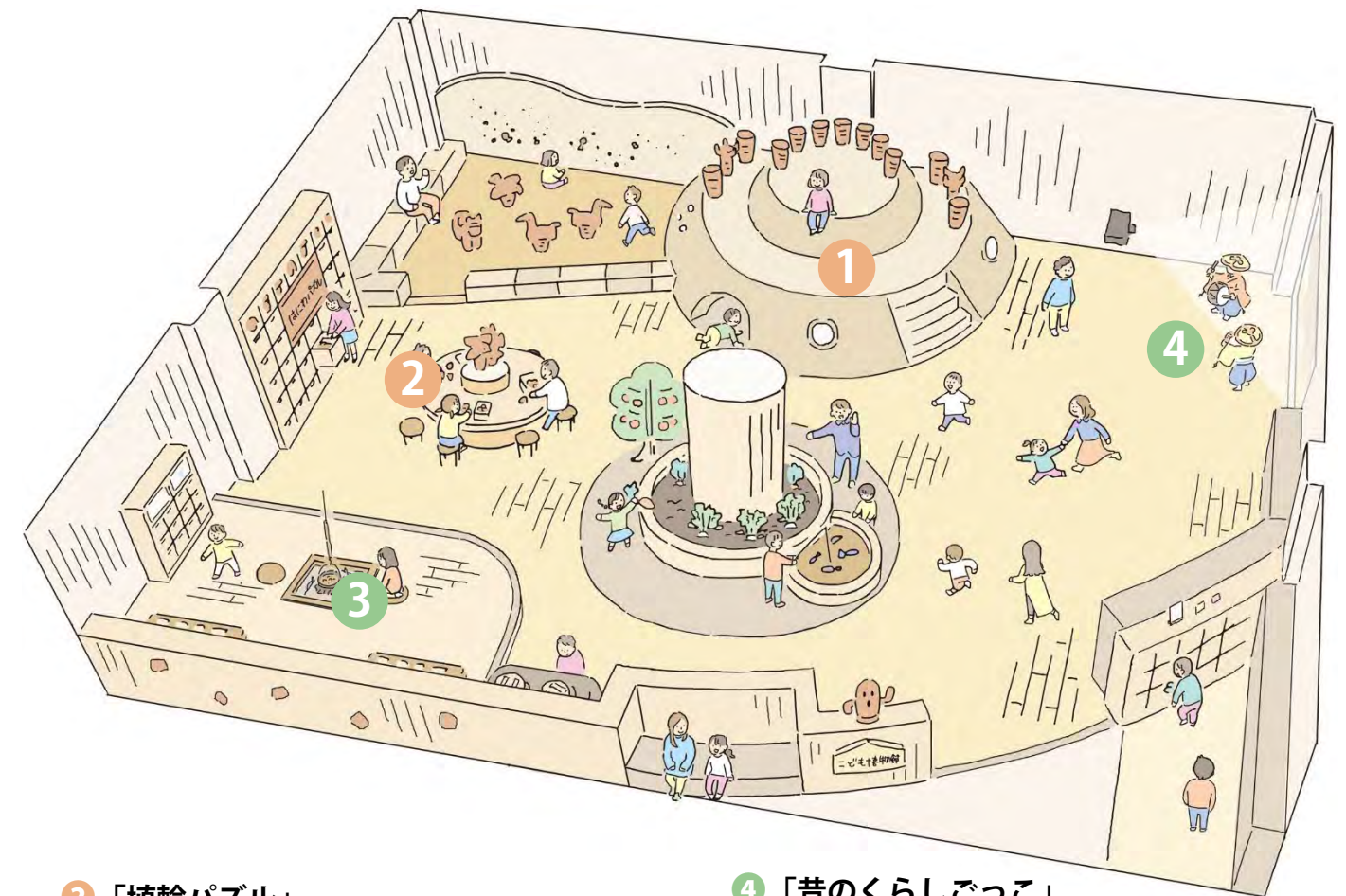
民俗
和歌山の祭り/昔の暮らしごっこ

① 「古墳遊具」

古墳の上に登り、石室の中に入る体験で、古墳の風景や古代人が想像した世界を体感する。

③ 「祭りの衣装と楽器」

祭礼衣装の着用や楽器の演奏を通して、和歌山の祭りの衣装と楽器に親しむ。



② 「埴輪パズル」

岩橋千塚古墳群出土の埴輪をモデルにした、立体埴輪パズルを組み立てる事で、埴輪のかわさちを知る。

④ 「昔の暮らしごっこ」

衣・食・住・生業の道具に触れ、ままごとを通じて和歌山の暮らしを実感する。

【体験アイテムのポイント】

- ・五感を使って体験できるハンズ・オンの展示手法を積極的に導入し、身体全体をつかって楽しめる工夫を取り込みます。
- ・和歌山の地域性や考古と民俗の文化財の要素を盛り込みます。
- ・未就学児（～小学校低学年）を対象にした体験とします。

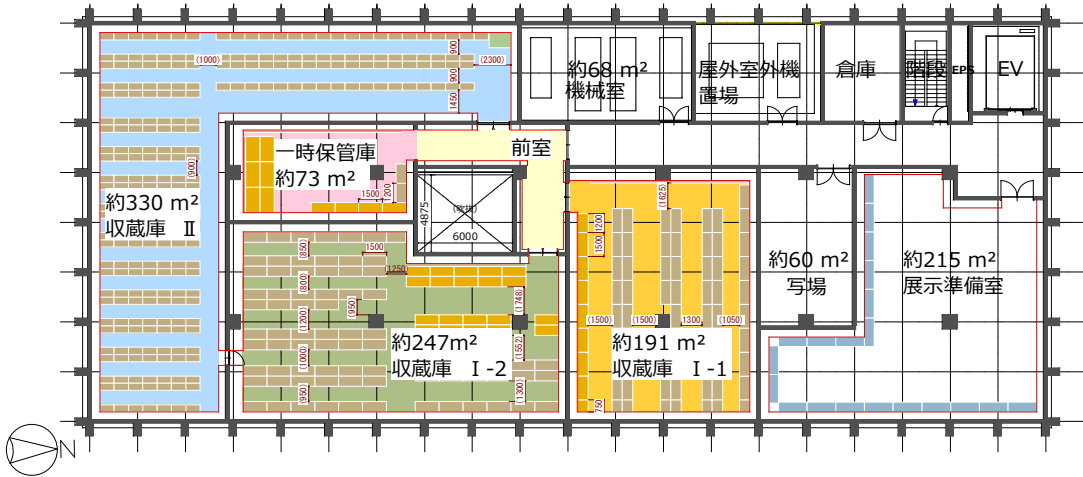
保存環境整備の基本方針

和歌山県が収集してきた文化財を未来へ確実に継承するため、最適な文化財保存環境を実現する。
博物館（新築）については、公開承認施設基準を満たし、館蔵資料だけでなく他館からの借用資料も
安心・安全に保存・公開できる環境を整備する。

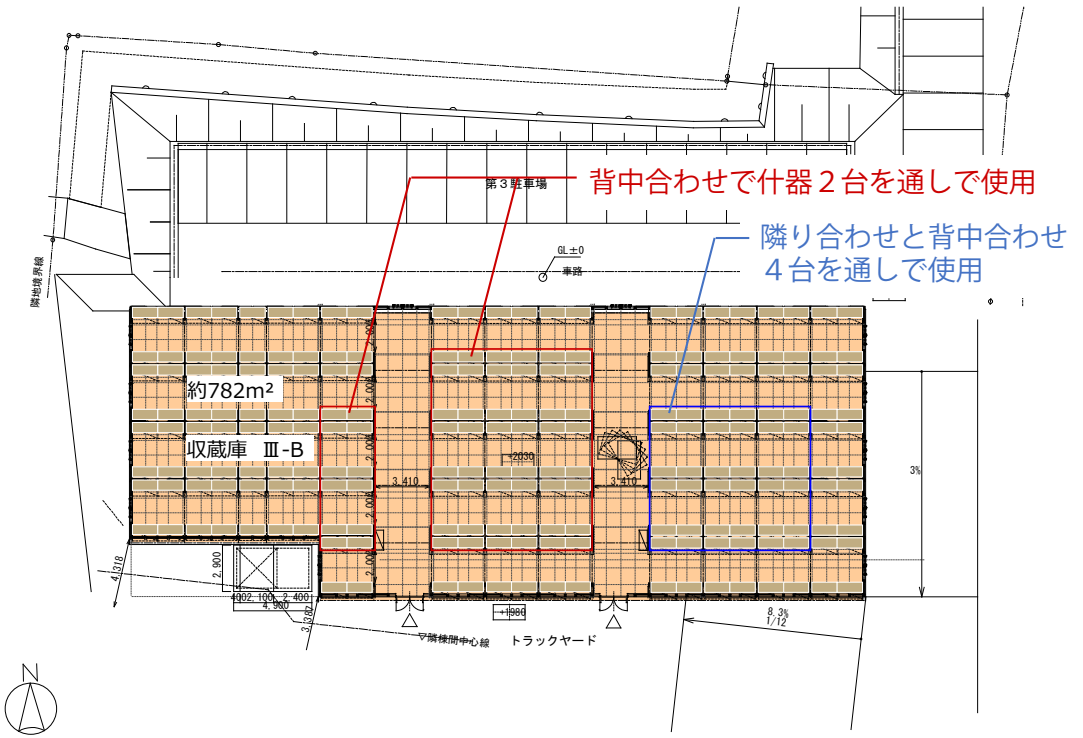
- 収蔵資料の特性をふまえた最適な配置、構成の設定
- 収蔵庫の部屋全体で安定した保存環境の確保
- 資料の特性に合った什器、文化財IPM管理のしやすい仕様と配置

収蔵庫整備計画概要

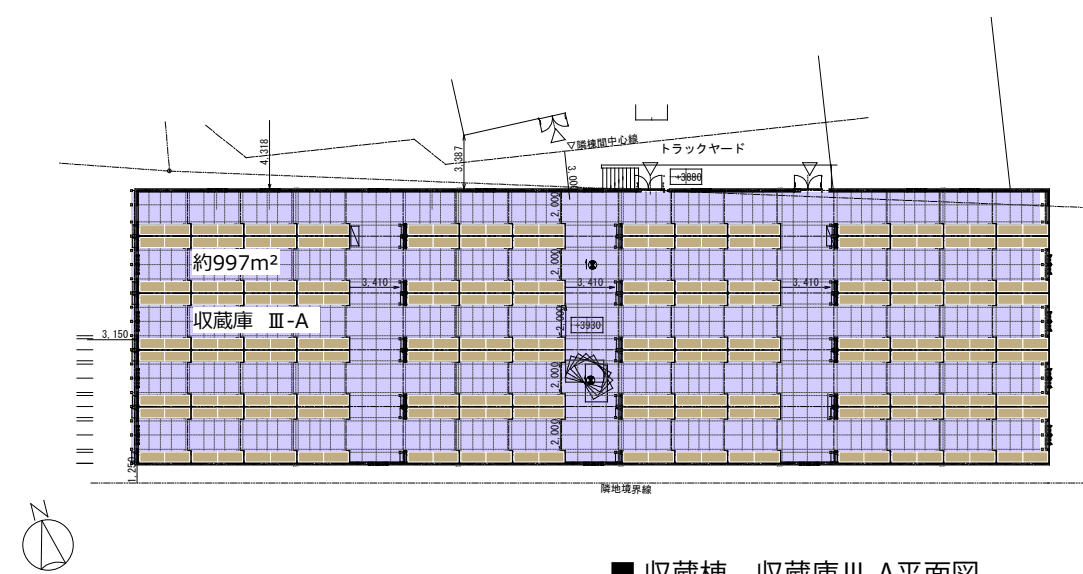
棟	収蔵庫名	分野等	面積	天井高	収蔵予定資料	収蔵什器整備概要
博物館（新築）	収蔵庫Ⅰ－１	素材別で検討	約191㎡	3.2m	・指定文化財（民俗資料）、染色資料等 ・屏風、漆器・陶磁器、生活道具類 ・階段筆筒、家形埴輪、甕等の大型資料等 ・指定文化財（考古資料）、 展示活用頻度が高い資料、金属製品、木製品	・オープンラック （鋼製棚板※一部中性紙シート貼り）を整備 ・棚高さ2.7m程度
	収蔵庫Ⅰ－２	素材別で検討	約247㎡	3.2m		・オープンラック （鋼製棚板※一部中性紙シート貼り）、 一部床置すのコステージ等を整備 ・棚高さ2.7m程度
	収蔵庫Ⅱ	写真系	約330㎡	3.2m	・報告書、写真アルバム、図面等 ・岩橋文化財整理事務所（長屋） （キャビネット保管されている写真資料）	・フィルム・写真、図面資料等保管用の オープンラック（鋼製棚板）を整備 ・既存マップケースを移設 ・棚高さ2.4m程度
	一時保管庫	—	約73㎡	3.2m	・国宝や重要文化財等の借用資料	・オープンスペースの確保を基本とする。 ・オープンラック （鋼製棚板※一部中性紙シート貼り）、 壁面メッシュパネル、床置すのコステージ等 を整備
	前室	—	約44㎡	3.2m		
収蔵棟	収蔵庫Ⅲ－Ａ	考古民俗	約997㎡	4.3m	・水車、農具等の中型～大型民俗資料、 根来寺関連の考古資料 ・生活道具類 ・漁労具類 ・考古資料	・オープンラック（鋼製棚板）を整備 ・棚高さ4m程度
	収蔵庫Ⅲ－Ｂ	考古民俗 大型民具	約782㎡	4.3m		・オープンラック（鋼製棚板）を整備 ・大型資料を保管するため、一部は背中合わせ の什器を通して使用できるよう配慮する。 ・棚高さ4m程度



博物館（新築）3階平面図



収蔵棟 収蔵庫Ⅲ-B平面図



収蔵棟 収蔵庫Ⅲ-A平面図